

べ つ

ふ

第2回  
子ども市議会



平成16年8月19日  
開催

会

録

議



別府市議会議員

清成 宣明

## 子ども市議会を終えて

第2回「べっぷ子ども市議会」も先生方、PTA、並びに市子連の皆様方のご尽力により、子供たちの活発な審議の下に、無事終了しました。

前は、小学生のみの参加でしたが、今回は小学生と中学生で子ども市議会を構成いたしました。子供たちは、一般質問をはじめ色々な場面で、それぞれの意見等に熱心に耳を傾けておりました。

少しずつ年齢の異なる子供たちは、お互いの主張を聞き、考え、質問、提言を行いました。そして「住みよい町別府」子ども宣言をいたしました。民主主義というのは、色々な人の意見を聞いて、一番よい方法を探していく努力だと思います。

私たちは、やがて、この子供たちに支えられていきます。先輩方から私たちに社会を託されたように、私たちもまた、子供たちに未来の別府を託していかなければなりません。

子ども市議会での経験が、ふるさとを見つめ、かかわっていく何かのきっかけになっていただければ幸いです。



別府市長

伊藤 博

## 楽しく、素晴らしかった子ども市議会

小学生と中学生の議員による第2回「べっぷ子ども市議会」は、市政全般にわたる一般質問とあらゆる角度からのまちづくりの提言をいただくとともに、「住みよい町別府」子ども宣言により、大変中身の濃い子ども市議会となりました。

ご尽力いただきました先生方、保護者の方々、そして関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。

子どもたちの視点からなされた質問や提言は、するどく、素晴らしいものばかりであり、「今住んでいる別府を良くしたい」、「きれいなまちにして多くのお客さん来てもらいたい」このような純粋で真剣な熱意にあふれたものでした。

私たちは夢と希望に満ちあふれる「元気なべっぷ」をめざし、子どもたちに引き継げるまちづくりを進めていかなければならないことを学びました。本当にありがとうございました。

## 議長



丸尾宗一郎議員（鶴見台中3年）

## 副議長



三浦 望議員（中部中3年）

## 一般質問



川畑絵里美議員（北小6年）



橋本奈苗議員（浜脇中3年）



首藤貴博議員（野口小6年）



渡辺康太郎議員（朝日小6年）



三城準太議員（山の手中1年）



三浦修平議員（東山中3年）



廣石純一議員（朝日中3年）



矢田万美子議員（亀川小6年）



大塚健一郎議員（青山中2年）



久恒美由紀議員（中部中3年）



鈴木美紗議員（鶴見台中3年）



稲田 恵議員（石垣小6年）



若竹美里議員（北部中3年）



若浦三枝子議員（境川小6年）



繁昌大介議員（南立石小6年）



加藤優志議員（西小6年）

## 提 言



森 浩輝議員（浜脇中3年）



大野真季議員（東山小6年）



藤井紗綾議員（緑丘小6年）



松田佳恵議員（青山小6年）



堀 友美議員（山の手小2年）



青山頌司議員（春木川小6年）



小城 愛議員（上人小6年）



江藤知美議員（北部中3年）



中原豊梧議員（大平山小6年）



秋吉諒二議員（南小6年）



首藤亜梨沙議員（鶴見小6年）



工藤瑞紀議員（東山中3年）

## 子ども宣言

## 謝 辞



佐藤千種議員（青山中2年）



宇都宮渚議員（朝日中3年）

## 第2回「べっぷ子ども市議会」会議録 目次

・ 会期日程表	1
・ 上程議案議決一覧表	1
・ 一般質問表	1
・ 提言表	3
第1号（8月19日・木曜日）	
・ 出席議員	5
・ 欠席議員	6
・ 説明のための出席者	6
・ その他出席者	6
・ 議会事務局出席者	7
・ 議事日程表（第1号）	7
・ 本日の会議に付した事件	7
（開 会）	9
・ 議席の指定	9
・ 会議録署名議員の指名	10
・ 一般質問	11
質問者・川 畑 絵里美 議員	11
答弁者・松 岡 真 一 建設部参事	11
答弁者・浜 田 博 市長	12
質問者・橋 本 奈 苗 議員	13
答弁者・亀 山 勇 市長公室長	14
答弁者・東 昇 司 観光経済部長	14
答弁者・浜 田 博 市長	15
質問者・首 藤 貴 博 議員	15

答弁者・金澤	晋	建設部長	16
答弁者・浜田	博	市長	16
質問者・渡辺	康太郎	議員	17
答弁者・高橋	徹	生活環境部長	17
答弁者・金澤	晋	建設部長	17
答弁者・浜田	博	市長	18
質問者・三城	準太	議員	19
答弁者・岡部	光瑞	福祉保健部長	19
答弁者・金澤	晋	建設部長	20
答弁者・浜田	博	市長	21
質問者・三浦	修平	議員	22
答弁者・東	昇司	観光経済部長	22
答弁者・浜田	博	市長	23
質問者・廣石	純一	議員	24
答弁者・山田	俊秀	教育長	24
答弁者・浜田	博	市長	25
質問者・矢田	万美子	議員	26
答弁者・東	昇司	観光経済部長	27
答弁者・浜田	博	市長	27
質問者・大塚	健一朗	議員	28
答弁者・友永	哲男	企画財政部長	28
答弁者・東	昇司	観光経済部長	29

答弁者・浜田博市長	29
質問者・久恒美由紀議員	31
答弁者・金澤晋建設部長	31
答弁者・浜田博市長	32
質問者・鈴木美紗議員	32
答弁者・龜山勇市長公室長	33
答弁者・浜田博市長	33
質問者・稲田恵議員	34
答弁者・山田俊秀教育長	34
答弁者・浜田博市長	35
質問者・若竹美里議員	35
答弁者・岡部光瑞福祉保健部長	36
答弁者・高橋徹生活環境部長	36
答弁者・浜田博市長	37
質問者・若浦三枝子議員	37
答弁者・岡部光瑞福祉保健部長	37
答弁者・浜田博市長	38
質問者・繁昌大介議員	39
答弁者・山川浩平観光経済部参事	39
答弁者・東昇司観光経済部長	40
答弁者・浜田博市長	40



質問者・加藤優志議員	4 1
答弁者・岡部光瑞 福祉保健部長	4 1
答弁者・浜田博 市長	4 2
(休憩・再開)	4 2
・提言の発表	
森浩輝 議員	4 2
大野真季 議員	4 3
藤井紗綾 議員	4 3
松田佳恵 議員	4 4
堀友美 議員	4 5
青山頌司 議員	4 5
小城愛 議員	4 5
江藤知美 議員	4 6
中原豊梧 議員	4 7
秋吉諒二 議員	4 8
首藤亜梨沙 議員	4 8
工藤瑞紀 議員	4 9
・議員提出議案第 1 号子ども宣言について、上程	4 9
・提案理由説明	佐藤千種 議員 4 9
・表 決	5 0
・閉 会	5 0

---



---

## [ 閉 会 式 ] 目 次

・閉会式次第	5 1
・閉 会	5 3
・市議会議長あいさつ	清成宣明 市議会議長 5 3
・市長あいさつ	浜田博 市長 5 4

・ 記念品の贈呈 .....	山 田 俊 秀 教育長 .....	5 7
・ 子ども議員代表者謝辞 .....	宇都宮 渚 議員 .....	5 7
・ 閉 会 .....		5 7

## 第 2 回「べっぷ子ども市議会」会議録

○会 期 平成16年8月19日(1日間)

### ○会期日程表

平成16年8月19日(木)本会議 議席の指定、会議録署名議員の指名、会期の決定、一般質問、提言、議員提出議案第1号 子ども宣言について

### ○上程議案議決一覧表

議員提出議案第1号 子ども宣言について 平成16年8月19日 原案可決

### ○一般質問表

質 問 項 目	質 問 議 員
スパビーチを中心とした海岸線の環境	3番議員・北小学校 川 畑 絵里美
他文化交流	25番議員・浜脇中学校 橋 本 奈 苗
公園がほしい	1番議員・野口小学校 首 藤 貴 博
きれいな別府市にするための対策について	11番議員・朝日小学校 渡 辺 康太郎

バリアフリー、福祉施設	17番議員・山の手中学校 三城準太
別府ならではの取り組み（他と比較して）	29番議員・東山中学校 三浦修平
佐世保の小学校の事件を繰り返さないために	28番議員・朝日中学校 廣石純一
観光の町として	9番議員・亀川小学校 矢田万美子
温泉を根底にしたまちづくり	20番議員・青山中学校 大塚健一郎
別府の海岸線の環境整備について	21番議員・中部中学校 久恒美由紀
子どもが参加しやすいように行事のPR	31番議員・鶴見台中学校 鈴木美紗
学校の施設設備の充実について	12番議員・石垣小学校 稲田恵
「たばこのポイ捨て」条例について	23番議員・北部中学校 若竹美里

老人ホーム施設の充実	2 番議員・境川小学校 若 浦 三枝子
大型映画館等観光施設の誘致	7 番議員・南立石小学校 繁 昌 大 介
お年寄りや障害がある人のための福祉バス	5 番議員・西小学校 加 藤 優 志

○ 提言表

提 言 内 容	提 言 議 員
学校の施設・設備について	2 6 番議員・浜脇中学校 森 浩 輝
東山の川から見た自然環境保護の大切さ	1 6 番議員・東山小学校 大 野 真 季
産業別人口、食料の輸入増加	1 4 番議員・緑丘小学校 藤 井 紗 綾
バリアフリーやユニバーサルデザインの視点 や発想が必要	6 番議員・青山小学校 松 田 佳 恵
温泉、娯楽施設、施設改築	1 8 番議員・山の手中学校 堀 友 美

<p>弟の乳母車をおす時に困る道路状況</p>	<p>13番議員・春木川小学校 青山頌司</p>
<p>お年寄りも利用しやすい上人校区の温泉設備</p>	<p>10番議員・上人小学校 小城愛</p>
<p>ワンダーラクテンチのあり方と市民の協力</p>	<p>24番議員・北部中学校 江藤知美</p>
<p>通学路が暗くて危険</p>	<p>15番議員・大平山小学校 中原豊梧</p>
<p>ゴミ問題</p>	<p>4番議員・南小学校 秋吉諒二</p>
<p>別府に流れている川について</p>	<p>8番議員・鶴見小学校 首藤亜梨沙</p>
<p>ゴミの量を減らす取り組み</p>	<p>30番議員・大平山小学校 工藤瑞紀</p>

## 第2回「べっぷ子ども市議会」会議録(第1号)

平成16年8月19日

### 出席議員(32名)

1	番議員	野口小学校	6年	首藤 貴博 君
2	番議員	境川小学校	6年	若浦 三枝子 さん
3	番議員	北小学校	6年	川畑 絵里美 さん
4	番議員	南小学校	6年	秋吉 諒二 君
5	番議員	西小学校	6年	加藤 優志 君
6	番議員	青山小学校	6年	松田 佳恵 さん
7	番議員	南立石小学校	6年	繁昌 大介 君
8	番議員	鶴見小学校	6年	首藤 亜梨沙 さん
9	番議員	亀川小学校	6年	矢田 万美子 さん
10	番議員	上人小学校	6年	小城 愛 さん
11	番議員	朝日小学校	6年	渡辺 康太郎 君
12	番議員	石垣小学校	6年	稲田 恵 さん
13	番議員	春木川小学校	6年	青山 頌司 君
14	番議員	緑丘小学校	6年	藤井 紗綾 さん
15	番議員	大平山小学校	6年	中原 豊梧 君
16	番議員	東山小学校	6年	大野 真季 さん
17	番議員	山の手中学校	1年	三城 準太 君
18	番議員	山の手中学校	2年	堀 友美 さん
19	番議員	青山中学校	2年	佐藤 千種 さん
20	番議員	青山中学校	2年	大塚 健一朗 君
21	番議員	中部中学校	3年	久恒 美由紀 さん
22	番議員	中部中学校	3年	三浦 望 さん
23	番議員	北部中学校	3年	若竹 美里 さん
24	番議員	北部中学校	3年	江藤 知美 さん

25番議員	浜脇中学校	3年	橋本奈苗さん
26番議員	浜脇中学校	3年	森浩輝君
27番議員	朝日中学校	3年	宇都宮 渚さん
28番議員	朝日中学校	3年	廣石純一君
29番議員	東山中学校	3年	三浦修平君
30番議員	東山中学校	3年	工藤瑞紀さん
31番議員	鶴見台中学校	3年	鈴木美紗さん
32番議員	鶴見台中学校	3年	丸尾宗一郎君

欠席議員（なし）

説明のための出席者

市長	浜田博君	助役	大塚利男君
収入役	池部光君	教育長	山田俊秀君
水道局長	宮崎眞行君	監査委員	櫻井美也子君
総務部長	須田一弘君	企画財政部長	友永哲男君
市長公室長	亀山勇君	観光経済部長	東昇司君
建設部長	金澤晋君	生活環境部長	高橋徹君
福祉保健部長	岡部光瑞君	消防長	加藤隆久君
観光経済部参事	山川浩平君	建設部参事	松岡真一君
学校教育課長	利光弘文君		

その他出席者

別府市議会議長	清成宣明君
別府市議会副議長	松川峰生君
別府市議会子ども会を支える議員連盟会長	首藤正君
別府市議会子ども会を支える議員連盟副会長	永井正君



別府市子ども会育成会会長 平松徹夫君  
連合会会長

別府市PTA連合会会長 中島一志君

**議会事務局出席者**

局長	林 慎一	参事	加藤陽三
次長兼調査係長	是永敏明	議事係長	本田明彦
主査	濱崎憲幸	主査	渡辺敏之
主査	永野修子	主査	柏木正義
主査	村上正人	主事	遠藤 緑

**議事日程表（第1号）**

平成16年8月19日（木曜日）午前9時開議

- 第1 議席の指定
- 第2 会議録署名議員の指名
- 第3 会期の決定
- 第4 一般質問
- 第5 提 言
- 第6 議員提出議案第1号 子ども宣言について

本日の会議に付した事件

日程第1～日程第6（議事日程に同じ）



市議会事務局長（林 慎一君） おはようございます。初めに議長、副議長の選出については、あらかじめ決定をされております。御紹介をさせていただきます。

議長は鶴見台中学校3年生・丸尾宗一郎君、副議長は中部中学校3年生・三浦 望さんをお願いいたしますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、丸尾宗一郎君、三浦望さん、議長席、副議長席までお願いいたします。

---

午前9時00分 開会

議長（丸尾宗一郎君） おはようございます。

ただいま御紹介をいただきました議長役の鶴見台中学校の丸尾宗一郎と、副議長役の中部中学校の三浦望さんです。日本一の温泉のまちづくりのため、また日本一の子ども市議会になるようにがんばっていきたいと思いますので、皆さんの御協力をよろしくをお願いいたします。

これより第2回べっぷ子ども市議会を開会いたします。

開会に当たり、市長さんを初め多くの皆さんの出席をいただきました。

本日の議事は、議事日程第1号により行います。

日程第1により議席の指定を行います。

議席は、議長において指定いたします。議席番号と氏名を職員の方に読み上げてもらいます。

市議会事務局主査（永野修子さん） それでは議席番号と氏名を読み上げますので、「はい」と返事をし、起立の上一礼をしてください。

- |   |     |        |         |
|---|-----|--------|---------|
| 1 | 番議員 | 野口小学校  | 首藤貴博君   |
| 2 | 番議員 | 境川小学校  | 若浦三枝子さん |
| 3 | 番議員 | 北小学校   | 川畑絵里美さん |
| 4 | 番議員 | 南小学校   | 秋吉諒二君   |
| 5 | 番議員 | 西小学校   | 加藤優志君   |
| 6 | 番議員 | 青山小学校  | 松田佳恵さん  |
| 7 | 番議員 | 南立石小学校 | 繁昌大介君   |
| 8 | 番議員 | 鶴見小学校  | 首藤亜梨沙さん |
| 9 | 番議員 | 亀川小学校  | 矢田万美子さん |

10番議員	上人小学校	小城	愛さん
11番議員	朝日小学校	渡辺	康太郎君
12番議員	石垣小学校	稲田	恵さん
13番議員	春木川小学校	青山	頌司君
14番議員	緑丘小学校	藤井	紗綾さん
15番議員	大平山小学校	中原	豊梧君
16番議員	東山小学校	大野	真季さん
17番議員	山の手中学校	三城	準太君
18番議員	山の手中学校	堀	友美さん
19番議員	青山中学校	佐藤	千種さん
20番議員	青山中学校	大塚	健一朗君
21番議員	中部中学校	久恒	美由紀さん
22番議員	中部中学校	三浦	望さん
23番議員	北部中学校	若竹	美里さん
24番議員	北部中学校	江藤	知美さん
25番議員	浜脇中学校	橋本	奈苗さん
26番議員	浜脇中学校	森	浩輝君
27番議員	朝日中学校	宇都宮	渚さん
28番議員	朝日中学校	廣石	純一君
29番議員	東山中学校	三浦	修平君
30番議員	東山中学校	工藤	瑞紀さん
31番議員	鶴見台中学校	鈴木	美紗さん
32番議員	鶴見台中学校	丸尾	宗一郎君

以上でございます。

議長（丸尾宗一郎君） ただいま職員の方に読み上げていただいたとおり議席を指定いたします。

次に、日程第2により、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、

8番 首藤 亜梨沙さん

15番 中原豊梧君

18番 堀友美さん

以上3名の方をお願いいたします。

次に、日程第3により、会期決定の件を議題といたします。

子ども市議会の会期は、本日1日といたしたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（丸尾宗一郎君） 御異議なしと認めます。

よって、子ども市議会の会期は本日1日と決定いたしました。

次に、日程第4により、一般質問を行います。一般質問者は16名であります。質問順位により質問をお願いいたします。

最初に3番議員北小学校の川畑絵里美さんの一般質問をお願いいたします。

3番議員（川畑絵里美さん） スパビーチを中心とした北小学校校区内の海岸線について質問があります。

北小学校は、現在の場所に移って19年たったと聞いています。その間にスパビーチで凧上げ大会やサンドアート、スケッチ大会などの多くの活動をしてきました。第2グラウンドのように思いながら大切にしようのごみ拾いも毎年続けています。ことしも6月に北小全児童195名でスパビーチの清掃をしました。ことしはごみ袋が50袋も集まりました。集めながらなんでこんなにごみが多いのだろう、もっと砂浜を大事にしてほしいと思いました。また、校区内の海岸線のほとんどがテトラポットです。防波堤の役目で仕方ないでしょうが、残念なことに安心して気軽に遊ぶこともできません。何とか私たちが安心して遊べる海岸線、ごみのない海岸線、観光客の人たちも気軽に散歩できる海岸線にできないものでしょうか。市長さん、考えをお聞かせください。

建設部参事（松岡真一君） お答えいたします。

毎年スパビーチの清掃、本当にありがとうございます。御苦労さまです。私ども確かに別府の海岸はテトラポットが非常に多いんです。そしてそのテトラポットを清掃しようとするとは非常に危険で、大変に困難なことであります。ですからその結果としましてごみがたまっております。私ども観光都市別府といたしましては、これは非常に残念なことなのです。

それで、私ども別府市はこのテトラポットを取り除いて、それから海に親しめるような、そして台風等からみんなを守ってくれるような海岸をつくってくれませんかということを、大分県と一緒にになりまして国の方をお願いに行きました。そしてそのお願いについて、国の方がそれは大変なことだからそういたしましょうということで、平成13年度に国の方から別府港海岸保全施設整備事業を認めていただきました。これによりまして別府の海岸は新しく生まれ変わることになります。そしてその中で、北小学校の隣の境川から観光港、この間が約800メートルありますけれども、ここを餅ヶ浜地区と定めまして、ことしの6月に着工式がありまして、今工事が始まっております。これをちょっと説明いたしますと、国土交通省がやっているんですが、国が地域の人意見を聞いて海岸を整備しようという試みを九州で初めてやっております。これはどうするかと言いましたら、地域の皆様方を集めまして、どんな海岸がいいでしょうかということで、その意見を聞きながら国の方が設計図を書きました。そしてこれの着工を見たわけです。今度は平成19年度までに餅ヶ浜地区が完成して海辺に親しめる、そして環境にやさしい、すばらしい美しい海岸ができることになっております。それから北小学校の隣にありますスパビーチの大分寄りから北浜のヨットハーバーの間を今度は国土交通省は北浜地区と定めまして、同じように海岸の整備をみんなの意見を聞きながら、どうしましようかということで設計図を起こして工事をすることになっております。そのように国と大分県、別府市が一緒になって海岸線を整備してテトラポットをなくす方向でやっております。そうしますとすばらしい海岸線ができてきますが、またそのすばらしい海岸でもごみが出てくると思います。そういうことはともかく、ごみをきれいにしながらすばらしい海岸ができてきますので、皆様方大変楽しみにして、どういうふうにして海辺で遊ぼうかというようなことも考えておいていただけるとありがたいと思います。以上であります。

市長（浜田 博君） 川畑絵里美議員の質問にお答えをいたします。

ごみの問題ですが、海岸線に捨てられる物のほか、ごみの多くは川や水路からのごみが海岸に流れ着いてまいります。夏場は特に別府湾に漂流してくるごみは、湾の奥の別府海岸に流れ込んでくるわけです。今、スパビーチにも流れ着いて海岸で遊ぶのも本当にいやになることもあると思います。これは市民一人一人が普段から気をつけて、どんな小さなごみも川や海に捨てないという気持ちを持たなければ解決ができません。

いのではないかなというふうに思っております。今、建設部参事がお答えをいたしましたように、餅ヶ浜地区はもう工事が始まりました。観光客や市民の皆様にご気持ちよく利用していただけるように、美しい海岸がつくれます。美しい海岸ができて、またスパビーチと同じようにごみが打ち上げたら、遊ぶのにも本当に困ってしまいます。皆さんと真剣に環境美化に取り組んでいかなければならないと思っております。

いつもスパビーチの清掃をしていただいて本当にありがとうございます。別府市も恒例となっておりますが、海岸・海浜清掃奉仕活動、ことしも7月19日に一斉にやりました。こういう活動を通じながら全市内に海岸をきれいにしようという気持ちが生まれてくるといいなと思っております。そしてきれいな海岸で大いに遊んで、小さいころの思い出をいっばいつくってほしいなと願っております。餅ヶ浜地区の海岸では、人々が海辺と触れ合える美しい景観を持った安全な海岸ができ上がるわけです。島崎藤村の歌にありますね。「名も知れぬ遠き島より流れよる椰子の実一つ」と。このように人々が訪れてみたくなるようなロマンチックなそういう美しい海岸ができ上がりますので、皆さんと一緒に世界に誇れる海岸にしていきたいと思っております。貴重な御提言、本当にありがとうございました。

3番議員（川畑絵里美さん） ありがとうございます。一日も早くきれいな海岸ができるようにがんばってください。

これで私の質問を終わります。

議長（丸尾宗一郎君） 次に、25番議員浜脇中学校の橋本奈苗さんの一般質問をお願いいたします。

25番議員（橋本奈苗さん） 別府の国際交流についての質問です。

ことしから別府ドリームバルが廃止されて、国際交流の場が1つ少なくなったと思うのですが、もうこのような国際交流の場は別府にはなくなってしまおうのでしょうか。もしなくなってしまえば、異国の文化と触れ合ったり、外国の方とお話をする機会が減ってしまうと思います。私はもっと異国の文化が知りたいし、その国の独特な食べ物も食べてみたいです。学校に来られるALTの先生とはいろいろなことについて話をしています。話をするととても楽しく、コミュニケーションが取れるような気がします。最初にも言ったとおり異国の方と触れ合えるすばらしい祭り、別府ドリームバルのようなイベントを私はぜひとも復活をさせて、別府の国際交流をもっともっと深

めていってほしいと思います。この点についてのお考えをお伺いいたします。

市長公室長（亀山 勇君） お答えをいたします。

私からは異国の文化と触れ合える主なイベントについて御説明をさせていただきます。

今、別府におられる外国人留学生は、世界の73の国と地域から2,300人の外国人の留学生が市内の大学で学んでいらっしゃいます。その留学生と小中高校生や市民の方との交流の一つのイベントといたしましては、世界の留学生と別府市民の国際交流の船というものを毎年実施してございます。ことしで第4回目となりますが、本年は10月9日に開催する予定にしております。その中では留学生の方と一緒にゲームをしたり、異国の文化に触れ合えるいろいろなイベントを行います。橋本さんもぜひこの機会に参加をしていただければと思っているところでございます。また市役所の2階に国際交流課がございまして、ここでは留学生を中心といたしまして国際交流員5名の方が毎日交代で来ていますので、橋本さんもこの機会にぜひこちらの方にお見えになられまして、異国の方々と触れ合いができればと思っているところでございます。以上でございます。

観光経済部参事（山川浩平君） それでは、ただいまの御質問の中で、ドリームバルのようなイベントを復活して国際交流の場をとということで、この視点でお答えをしたいと思っております。

まずドリームバルはなくなりましたが、交流の場が全くなくなったということではございません。ちなみに春では温泉まつりの際には、いろいろな留学生の方々が海外からお見えですけれども、そういう方への神輿（みこし）の担ぎ手、また現在進んでおります夏祭、この中では「アジア屋台」というものをご存じだと思いますけれども、その中で郷土料理の出店、それから音頭大会がございました。これは終わりましたが、この中でも踊り手として参加していただいたということでございます。あわせて秋には農業祭の時期になると思いますけれども、「ダンスフェスタ」を予定いたしておりますけれども、これにもダンスチームとして参加をしていただくという予定にいたしておりますので、交流の場、輪はどんどん広がっておるというふうに私どもは考えておりますし、地域でもいろいろな方と海外の留学生との交流が広がっていると私どもも把握しておりますので、どうぞその辺を御理解いただいて、橋



本さんにはそういう場にぜひ機会があれば参加していただければありがたいなというふうに考えております。以上でございます。

市長（浜田 博君） 橋本奈苗議員の質問にお答えをいたします。

ドリームバルのようなイベントを復活してほしいということで、今答弁がありました。外国の人々と触れ合うイベントの一つであったドリームバルという名前は消えました。しかし今、お話がありましたようにイベントの名称としてはなくなったんですが、ドリームバルの中で一番人気のあった「ダンスフェスタ」、これは農業祭の時期に実施できるように今現在準備を進めております。それからまた別府市がことしかから市民、観光客の皆さんが参加できるそういうお祭りに変えていこうと。まず住んでいる市民の皆さんが、「ああ、参加してよかったな」と、そういう祭りやイベントにしないでという思いで、市民参加型の祭りやイベントに内容を変えました。夏祭は各大学の留学生が本当にたくさん参加していただきました。とりわけ先ほどもお話がありました納涼音頭大会には、60人くらいの留学生が初めて浴衣（ゆかた）を着た喜びと、踊りを一生懸命練習して3つ覚えて踊っておりました。私も見て感動しましたし、皆さんから本当にこんなにうれしい体験をさせてくれてありがとうと喜んでいただきました。そういう踊りと、また今度は「アジアン屋台」に参加してくれますし、昨年よりももっと留学生との交流が深まるのかなという期待でいっぱいでございます。これからも留学生の皆さんを中心とする外国の人々との交流がしっかり図られるように、そういうイベントも積極的に進めてまいりますから、どうぞ今後とも温かいご支援をよろしくお願いを申し上げます。貴重な提言、ご質問ありがとうございました。

25番議員（橋本奈苗さん） ありがとうございました。異国の方と交流ができるイベントには参加をしたいと思えます。

議長（丸尾宗一郎君） 次に、1番議員野口小学校の首藤貴博君の一般質問をお願いいたします。

1番議員（首藤貴博君） ぼくたちの野口小学校には、校区の中に子どもが遊べる公園がありません。家と狭い道ばかりです。仕方がないので校区外の手門寺公園や天満公園に行って遊ぶ人がいます。校区外に出かけることは本当は悪いのです。交通事故に遭う可能性があります。手門寺公園はきれいになりましたが、知らない大人が多くて子どもが遊ぶには少し怖いのです。北石垣公園や南立石公園のようなりっぱな公園でなく

てもいいのです。小さい子も大きい子ものんびりと楽しめて、学校の運動場とはまた違った感じの公園が欲しいのです。できればローラー滑り台とかバスケットのリングとか芝生も少し欲しいと友だちは言っています。ボールが外に出ないように柵があると安全です。そこで友だちがふえて放課後、みんなで楽しめると思います。最近はずやゲームばかりで外で遊ばない子どもがふえてきました。社会体育をしている人以外は運動不足だと思います。ぼくたちの野口小学校の校区の中にも子どものための公園をつくってもらえるでしょうか。今後の予定を教えてください。

建設部長（金澤 晋君） お答えいたします。

首藤君が今言われましたように、野口校区の中には公園はありませんが、校区に隣接して先ほどおっしゃられましたように海門寺公園があります。ご質問の野口校区内に公園を設置をする予定でございますが、現在のところ残念でございますが、野口校区に公園を設置する計画はありません。以上でございます。

市長（浜田 博君） 首藤貴博議員の質問にお答えいたします。

首藤君の住んでいる野口校区内には、本当に残念ながら公園がありません。公園をつくってほしいという純粋な気持ち、今こういう公園がという具体的なお話までありましたね。まさに私もつくってあげたい気持ちでいっぱいでございます。しかし、公園をつくるためには広い土地が要りますね。それと費用もたくさんかかるということで、今部長が答えたように本当に申しわけないんですが、計画がないということでございます。首藤君の思うようなみんなでわいわい楽しく遊べる公園が近くにあると本当にいいと思います。今のところ野口校区内に公園をつくることはむずかしいということですから、少し遠いかもしれませんが、野口校区に隣接している海門寺公園はもちろんですが、保護者と一緒に利用できる広い別府公園、これなどの別府のすばらしい公園があります。そういうところを利用していろいろな遊びを通じてたくさんの友だちをつくってください。本当に貴重なご質問ありがとうございました。

1 番議員（首藤貴博議員） ぼくたちが卒業するまでに公園をなるべく早くつくれるような努力をしてください。お願いします。これで質問を終わります。

議長（丸尾宗一郎君） 次に、1 1 番議員朝日小学校の渡辺康太郎君の一般質問をお願いいたします。

1 1 番議員（渡辺康太郎君） ぼくは別府の環境美化について質問します。

道路、特に歩道にお菓子の食べかすや袋などが落ちています。公園には遊び道具のごみ、たとえばカードのパックやプラモデルのくずなどが散らかっています。川にはビニールの袋がプカプカ浮いています。海にはいろんなところからたくさんのごみが流れ着いています。それを見てぼくは嫌だなと思いました。朝日小学校では、定期的にクリーン活動という学校をきれいにする活動をしています。委員会では、生活委員会が中心になって学校をきれいにしています。〔資料提示〕

これを見てください。これは月曜日の朝にぼくたちが拾ったごみです。別府市では別府からごみをなくすためにどのようなことをしていますか。ぼくは別府からごみをなくすために別府市民全員に呼び掛け、一斉に掃除をする日をつくった方がいいと思います。

生活環境部長（高橋 徹君） お答えいたします。

渡辺君の言うように道路や公園、川などにごみが落ちているのを見て気持ちのいい感じはしませんね。きれいな別府にするためにはどのような取り組みをしているのかというご質問でございますが、まずごみのポイ捨てをしないように市報やケーブルテレビなどで市民の方に呼びかけを行っております。また観光客の玄関口であります別府駅や国際観光港、それから別府のインターチェンジ周辺などの地域を指定しまして、地域環境美化条例というのをつくって、ごみのないまちづくりを目指しているところでございます。そのほか小学校、中学校の皆さん方につきましては、ごみ問題や地球温暖化の問題等環境をテーマにしたポスターや作文を書きいただきまして、優秀作品につきましては10月に市役所に展示をし、表彰しているところです。それから市民みんなで清掃をとということですが、6月の第1週の日曜日に全市一斉清掃という日を設けて、みなさんに協力をいただいておりますので、またそういう機会がありましたらぜひ御参加をいただきたいと思います。以上でございます。

建設部長（金澤 晋君） 関連してお答えいたします。

渡辺君のご質問の道路、公園、川などのごみの問題でございますが、まずごみを捨てる人たちの意識の問題がございます。別府市民の一人一人が観光都市である別府を大切にしていこうという気持ちが大事だと考えているところでございます。

次に、市といたしましてはどのような対策を取っているかということでございますが、まず道路についてでございますが、平成16年度から「別府市道路里親制度」を

実施することになりました。これはどういうものかと申しますと、市と市民の皆さんが協働して道路を美しくしていこうというような作業でございます。現在、13団体、216名の方々に道路のごみ拾いや除草など道路の美化作業をしていただいているところでございます。

次に、川の清掃でございますが、朝見川、境川、春木川、板地川では川を守る会が結成されておりまして、それぞれの地域で清掃や除草などの多くの皆様方の参加によって活動をいただいているところでございます。また、朝見川におきましては、子供会や老人会、春木川におきましては、春木川小学校や鶴見台中学校の生徒の皆さん、それから境川におきましては、青山中学校やボランティア活動の一環としまして、皆さんがごみ拾いや空き缶拾いを清掃活動として行っているところでございます。

さらに、公園におきましては、以前、市内の公園すべてにゴミ箱を設置しておりましたが、公園の利用者だけではなく、家庭のごみ等を持ち込む人がおりまして、カラスや犬がそれを食べあさりまして散乱いたしました。公園のいろんな場所にごみが散乱することになりましたので、このようなことから別府市ではごみを出さない、捨てないというようなマナーアップを皆さん方をお願いしているところでございまして、公園内のゴミ箱を撤去し、自分のごみは自分の家に持ち帰って処理をしていただくというようなお願いをしているところでございます。また、公園ごとに地域の方々に組織をされております公園愛護会がありますが、この方たちに公園の清掃等をお願いしている状況でございます。

市長（浜田 博君） 渡辺康太郎議員のご質問にお答えをいたします。

ご質問のごみの問題ですが、具体的な取り組みは今、部長が答弁したとおりでございますが、私からも一言答弁をさせていただきます。

私が市長になったときのお約束で「ごみのないまちを目指します」ということがあります。これは観光都市である別府のまちを少しでもきれいにし、市民の皆さんに本当に喜んでいただくと同時に、観光客の皆さんに気持ちよく過ごしていただく、そしてもう一遍行ってみたいなど、そういうきれいなまちにしたいというのが私の願いでございます。別府市の市民憲章はご存じですね。「美しい町をつくりましょう・温泉を大切にしましょう・お客様をあたたかく迎えましょう」というすばらしい市民憲

章があります。これが観光都市別府の基本になっているわけですから、ぜひ今後もなお一層の市民憲章の推進を図りながら、国際観光温泉文化都市としてさらなる発展を目指して、市民の皆さんと一緒にきれいな美しいまちをつくっていききたいと、このように考えております。

今日、ここに出席をしておられます子ども市議会の議員の皆さんも、それぞれ通う学校や家庭、そして地域でごみの問題についてどうしたらよいかと、このことをしっかり話し合っていていただくとうれしいなと思います。どうぞよろしく願いいたします。貴重なご質問ありがとうございました。

11番議員（渡辺康太郎君） よくわかりました。これでぼくの質問を終わります。

議長（丸尾宗一郎君） 次に、17番議員山の手中学校の三城準太君の一般質問をお願いいたします。

17番議員（三城準太君） 福祉のバリアフリーについて質問をします。

私たちは今まで総合学習の時間を利用して別府の福祉についていろいろと調べてきました。

そこで質問です。

1つ目に点字ブロックの上にマンホールが設置されていたり、自動車や自転車などがとめてあったりする所がありました。このような状況に対してどのような対応をしているのでしょうか。

2つ目に、別府市では福祉のどのようなところに一番力を入れているのでしょうか。

3つ目に、別府市内では車イスの方を多く見かけますが、車イスの方が乗れるバスはどれくらいあるのですか。

4つ目に、お年寄りの方から別府の福祉について満足の声は聞いているのでしょうか。

最後に、別府市は坂道が多く、お年寄りの方や車イスの方が通行するのにかなり大変だと思うのですが、そのことについて何か対応や工夫をしているのでしょうか。

以上、5つについてよろしく願いいたします。

福祉保健部長（岡部光瑞君） お答えいたします。

まず最初の車イスが乗れるバスの件を私の方から答弁をさせていただきます。

路線バスとして定期的に運行されているバスで車イスが乗れるバスが2台あります。

外回り、内回りを循環する路線、鉄輪を起点として鉄輪から亀川国立病院、それから太陽の家を通過して亀川駅、観光港、別府駅、流川を通過してまた鉄輪に帰ってくる。今度は逆の方向で流川、別府駅というふうな線で走っております。1日にそれぞれ6便運行されております。それぞれ循環する路線の停留所は58カ所ありますが、その中で車イスが乗れるようになっている所は37カ所、そこで車イスの方が待っておれば、バスが停まって車イス用の乗車口が開いて車イスごと乗せられるというふうになっております。

なお、2台のバスが運行されておりますが、それぞれのバスには2台同時に車イスが乗せられるという状況になっております。以上です。

建設部長（金澤 晋君） お答えいたします。

ご質問の中の1と2と4と最後の5についてお答えさせていただきます。

まず、第1の質問でございますが、点字ブロックの上のマンホールの設置ですが、別府市では平成14年度から15年度までの間に別府駅西口の青山通りや、べっぴアリーナ周辺の道路を整備しております。この道路にも点字ブロックのある所にマンホールが幾つかありましたが、平成15年度にマンホールのふたに点字ブロックを張り付けてわかりやすいような改良をしておるところでございます。今後も順次マンホールで点字ブロックが切れている所など悪いところがございますら整備していきたいと考えているところでございます。また、点字ブロックの上に障害物などがありまして、大変歩きにくい場合などございましたら、道路パトロールなどを行っておりますので、その中で点検をしながら関係者に注意を促（うなが）していきたいと考えているところでございます。

質問の2についてお答えいたします。別府市では道路を整備することが福祉にとりまして大変大きな役割だと考えているところでございまして、平成7年度から高齢者や障害者が安全で安心して歩ける歩道を整備するために、北浜ホテル街周辺や別府駅西口周辺、それから新別府病院前や亀川太陽の家前などの歩道をバリアフリーを取り入れた歩行者にやさしい道路整備を進めておりまして、整備を行っているところでございます。

質問4についてでございますが、お年寄りから福祉について満足の声が聞かれているかということでございますが、別府市といたしましては、厳しい予算の中で高齢者

や障害者から少しでも満足していただける社会になるために努力をしているところでございます。まだまだいろいろな面で整備が必要などころがありますが、がんばっていきたいと考えているところでございます。

最後の質問でございます。別府市は山から海へ向けて傾斜しているために坂道の多いまちになっております。高齢者や車イスの方々にとりましては、大変登りがきついと思っております。傾斜のきつい道路におきましては、道路の途中にベンチ等を置きまして休みながら歩いていただくように少しずつ整備を進めているところでございます。先ほど申しましたように別府駅西口の青山通りに数カ所のベンチを設置しております。休憩する場所を設けておりますので、三城君にも一度ご利用していただければ大変ありがたいなと思っております。今後におきましても中部中学校前の道路や富士見通りなどにも計画をしておりますので、完成後には多くの皆様にご利用していただきたいと考えているところでございます。以上でございます。

市長（浜田 博君） 三城準太議員の質問にお答えをいたします。

今、建設部長がお答えしたように、福祉のこと、高齢者、障害者のためのバリアフリー、市の事業の中でも重要な事業として進めております。三城君から質問をいただいたように私も点字や誘導ブロックのある所にマンホールや障害物があって、障害者の方がお困りになっているということもよく聞いております。心配することが本当にあると思います。このことに気付かれた三城君の観察力は本当にするどいなと感心いたしました。皆さんも別府駅の西側、いわゆる山手側ですが、青山通りを歩いたことがあると思います。この青山通りにはマンホールの上にも誘導ブロックをきちんと設置をしております。すでにある道路の改善はもちろんでございますが、これから整備する道路につきましても今計画的に準備をしておりますし、整備をしたいとこのように考えております。

次に、坂道のことなんですが、別府のまちはどうしても傾斜地といえますか、扇状地の形状をしているわけですね。そういう中で山から海に向かって傾斜していることから、坂道の多いまちになっております。三城君の言われるように高齢者や障害者の多くの皆さんは本当に大変だなというふうに思います。坂道を平らな道をすることはできませんが、道路に街路樹を植えたり、またベンチを置いて木陰で市民が休息ができるようなそういう道路の整備を進めていききたいとこのように考えております。貴重

な御意見ありがとうございました。

17番議員（三城準太君） ありがとうございました。これでぼくの質問を終わります。

議長（丸尾宗一郎君） 次に、29番議員東山中学校の三浦修平君の一般質問をお願いいたします。

29番議員（三浦修平君） 別府に観光客をふやすための取り組みについて質問をいたします。

最近、ぼくは湯布院を紹介するテレビ番組をよく見ます。別府も少し前まではテレビで放送されていたと思いますが、最近は余り見なくなりました。こういうことからぼくは別府より湯布院の方が人気があるのではないかと思い始めました。両方とも温泉が全国的に有名です。ぼくも温泉へ行くことがあります。別府の温泉はお年寄りが多いのに対して、湯布院の温泉は子どもからお年寄りまで幅広い層の人が利用しています。また、広さや設備から見ても湯布院の方がやや上ではないかと感じました。このようなことを比較して別府をより多くの人に知ってもらい、「また来たい」と思われるようなまちになってほしいと思いますが、そのためにこれから取り組んでいこうとしていることはありますか。お答えをお願いいたします。

観光経済部長（東 昇司君） お答えいたします。

テレビの放映でございます。毎週土曜日の8時から8時半までフジテレビ系で全国放映されております「晴れたらいいね！」の撮影が偶然にもきのう別府で行われておりまして、近々全国放送される予定になっております。別府市は温泉地としまして古くから全国に知られております。そこで少し別府温泉につきましてご説明させていただきたいと思っております。

まず、別府温泉の湧出量（ゆうしゅつりょう）が日本一で一昼夜に13万キロリットル、また温泉の泉源数（温泉の吹き出し口）が2,800口、これも日本一であります。まして温泉の種類は11種類あります。そのうちの10種類が別府市から出ております。効能はそれぞれ違いますので、皮膚がちょっと荒れたなと思えばそれに効能が効く温泉に行ったりして、いろいろと温泉を使い分けているような状況でございます。さらに別府の特徴といたしまして市営温泉が18カ所、また区営・組合温泉併せますと100カ所の温泉の施設があります。そういう中で皆さんもご存じと思いますが、別府八湯と言いまして8カ所の温泉郷があり、それぞれ特色のあるまちづくり



を今考えて行っているところでございます。別府市の有名な代表する竹瓦温泉、テルマスの愛称であります「北浜温泉」、堀田、柴石、また「海浜砂湯」もあります。そういう特徴がある温泉をもとにしての別府であります。そういう施設の充実を図りながら、温泉をもとにして文化・スポーツ・イベントの開催等を行い、広く企画PRして、日本人のみならず外国人の方々も別府に行ってみたいというまちづくりに今後もがんばっていきたいと思っております。三浦君もぜひ市内の温泉めぐりをしていただき、入浴体験していただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

市長（浜田 博君） 三浦修平議員の質問にお答えいたします。

湯布院の温泉、本当にすばらしいですね。私もそう思います。しかし今、部長が答弁をいたしましたように、全国に誇れる温泉ブランドが別府にはあります。このことからその温泉を主軸にして今交通産業とか宿泊産業、それから農林水産業もさまざまな総合産業を、むずかしいんですがローマ字で「ONSEN」（オンセン）とあらわしております。「ONSEN・ツーリズム」という言葉で銘打ちまして、従来の観光の概念（今までの考え方・感覚）から抜け出そうとそういう取り組みを行っております。いわゆる見る観光だけではなくて、人との交流、そこに笑顔があり、それから交通産業、宿泊産業、農林水産業、すべて観光立市としてつながりますよということを、しっかり市の職員の皆さんもそして市民の皆さんも一緒に勉強して、「ONSEN・ツーリズム」ということでがんばっていこうと……。そういう従来の観光の概念から抜け出して、観光客のニーズ（要望・要求）に合った企画宣伝をどんどんやっていきたい。海外、世界に向けてやっていきたい。だから「ONSEN・ツーリズム」という言葉を世界共通語にしたいという思いで今がんばっております。いわゆる別府には別府八湯というすばらしい財産があります。この別府八湯のそれぞれの個性を大切に、いやしのまちづくりにしっかり取り組んでいこうとこのように思っております。今後も三浦君からご提言をいただきました、「また来たいな」とそういう別府にしたいと、こういうふうに思いますので、よろしく願いいたします。貴重なご質問ありがとうございました。

29番議員（三浦修平君） これからも別府の温泉を活かしてってください。これでほかの質問を終わります。

議長（丸尾宗一郎君） 次に、28番議員朝日中学校の廣石純一君の一般質問をお願いいたします。

28番議員（廣石純一君） 6月1日に起きた佐世保の小学校での事件について質問いたします。

ぼくは、佐世保の小学校で女子児童が同級生をカッターナイフで殺してしまったという残酷なニュースをテレビで知り、大変驚きました。ぼくはあのような悲しい事件が二度と繰り返されてはいけないと思います。考えてみればいつ自分の身近な学校で起きてもおかしくないと思います。だからこのことについて考えていきたいと思いました。

佐世保の小学校で起きた事件はネット上でのトラブルが原因で起こったとされています。だけれども、今の子供たちには学校でも家でもインターネットが使えるくらいインターネットが普及してきています。パソコンや携帯でメールもできます。このような状態の中で別府市としては佐世保の小学校のような事件を二度と繰り返さないための方策はあるのですか。方策があるとすれば、具体的にどのような対策なのか教えてください。

教育長（山田俊秀君） お答えいたします。

今、ご質問があったようにインターネットを使ったりとか、あるいは刃物を使うということというのは、大変生活する上では便利な道具になっております。

そこで、そのために生活も豊かになってきておりますので、これを禁止するということはなかなかむずかしい現状があろうかと思えます。皆さん方は学校でたとえば図工の時間だとか、あるいは中学校では美術の時間、あるいはそれ以外に技術の時間等ではさみを使ったりカッターナイフを使ったりということで、いろんな知恵を出しながらすばらしい作品をつくるということもやっております。また総合的な学習の時間や教科の時間等では今度はインターネットを使って、自分たちの知識をどんどんと広げていながら、あるいは考える力、また表現する力等もどんどん身につけていっているのが現状かと思っております。しかし、その使い方を誤りますと先ほどご質問がありましたように人を傷つけたりとか、あるいは命を奪うという凶器にもなってしまいます。大変悲しいことですが、先般起こったということでございます。

このような事件を起こさないためには、これらの道具の使用を控えるということは

根本的には解決にはならないというふうに思っております。

そこで、教育委員会として次のようなことに力を入れております。

まず、人の命を大切に、他人を思いやる豊かな心を育てるために学校行事とかあるいは総合的な学習の時間、あるいは道徳等で体験的な活動を積極的に取り入れまして、命のすばらしさとか助け合い、あるいはまた思いやることのすばらしさを身を持って感じることでできる教育活動に取り組むように、それぞれの学校にお願いをしております。

次に、インターネットでのトラブルが一つの原因ということになっておりますけれども、学校ではこれからもインターネットを活用した教育は推進してまいります。パソコンや携帯電話などの情報機器の光の部分といいますか、皆さんがそれを使って生活が豊かになる部分と、先ほどの事件のように暗い部分というものがあありますが、そういうところをしっかりと指導していきながら、その使い方のモラルだとかあるいはマナーをわきまえて利用しないと、人に迷惑をかけたとかあるいは犯罪に巻き込まれたりすることがありますので、そういうようなことがないようにということでも学校の方には指導しております。いずれにいたしましてもこの使い方については、最終的には人間一人一人の問題になってきますから、そういうことを考えていきますと、指導されたからどうだとかいうことではなくて、お家でもいろんなそういう話があったときに自分自身がしっかりしていけないと、大変そのことが自分だけでなく、周りの皆さんが悲しい思いをすることになりますので、皆さん方もそういうことを日ごろから心がけていただきたいと思います。以上であります。

市長（浜田 博君） 廣石純一議員の質問にお答えいたします。

私は市長に就任して以来、市民一人一人が我がまち別府に自信と誇りを持ち、そして心豊かで安心して暮らすことができる、住んでよかったなとそういうまちづくりを目指してがんばっております。今回の佐世保の事件、本当に大変痛ましいことです。私も本当に眠れない夜が続きました。人を思いやる心豊かな人というのは、決して間違った道具の使い方をしないと私は信じております。しかし、これは加害者の6年生の児童、または被害者である児童、私は2人の責任ではないと思うんですね。まさにあなたがその原因の一つにインターネットのことを挙げました。首都圏では小学校6年生は70%以上の子どもがホームページを開くことができる。インターネットを活

用している。学校だけではなくて家庭でもやっているわけですね。活字というのは怖いんです。そこに心のコミュニケーションがないから、同じ激励の言葉でも、また冗談で言ったことが冗談で通らない。そのままぐさりと心に突き刺さる怖さがあります。だから私はインターネットの原因もありますが、こういう事件が起こったときに反省をしなくてはいけないのは、大人社会なんです。家庭、地域、学校、みんながこういう状況になったことを本当に真剣に考えて、反省をしなくてはいけないと思います。普通の家庭で、普通の子どもで、きのうまで仲がよかった子どもが突然憎しみを持つ、この活字の怖さですね。だからできるだけ家庭では親子で顔をみて、笑いながら笑顔で会話ができるそういう習慣をしっかりとつけてほしいなと思います。友だちともメール交換よりも、近くだったら会って、肌で感じて、触れ合って楽しんでいただく、そういう付き合いをしてほしいなと思います。みんなと一緒に頑張って勉強したり、遊んだりすること、これがとてもすばらしいことですから、日ごろから助け合って、支え合って、そして学校生活を楽しく送ってほしいとこのように願っております。また困っている友だちがいたときには手を差し延べてあげる、支えてあげる、そういうやさしい雰囲気をつくってほしいと願っております。いずれにしても私たちはこの事件を教訓にしながら、地域のあり方、家庭の絆（きずな）、地域の絆、そして教育環境の整備をどのようにしたらいいかということを実心で考えていきたいと考えております。これからも別府に住んでよかったな、別府のまちはこんな事件は起こらないよと、そういう笑顔が絶えない明るいまちづくりのためにしっかりとがんばっていきます。貴重な提言ありがとうございました。

28番議員（廣石純一君） よくわかりました。ありがとうございました。

議長（丸尾宗一郎君） 次に、9番議員亀川小学校の矢田万美子さんの一般質問をお願いいたします。

9番議員（矢田万美子さん） 私は観光名所のまち・別府として質問をします。

私が別府のまちで一番気に入っている観光は温泉です。多分私以外にもたくさんの人たちが別府の温泉を好んでいると思います。しかし、私は別府の温泉に対して大きな不満があります。それはどう見たって小学生に上がったとしか思えない男子が女湯に入ってくることです。このことは県外から別府の温泉に入りに来たたくさんの人たちも悩んでいると思います。せっかく県外からわざわざお越しいただいたのに、一番

楽しみだった温泉に性別の違う人がお風呂に入っていたら、小さい子ならともかく、だいが大きくなった子たちにとってはとても入りにくいのです。

そこで市の皆さんに質問です。

市では何歳くらいまでなら性別の違うお風呂に入っていると思うんですか。また、「小学校に上がった男子は男湯に入ってください」などの張り紙はできないんですか、教えてください。

観光経済部長（東 昇司君） お答えいたします。

大変不愉快な思いをさせて申しわけございません。温泉施設、公衆浴場を利用する場合には、大分県がつくっている「大分県公衆浴場法」という決まりがあります。その中で「風紀（ふうき）の措置の基準」という中で、「10歳以上の男女を混浴させないこと」とここで決められております。ということは、9歳までは大分県の公衆浴場法では混浴できるということですので、10歳以上は混浴できないということになっております。

そこでご質問いただきました男女が混浴できないことの張り紙等につきまして、現在市営温泉を利用されている方は番台でいろいろ指導を行っておりますが、番台のない施設もあります。今、御要望のいただきました注意書等につきまして、早速注意書をつくって施設に張りたいと思っております。ご提言ありがとうございました。

市長（浜田 博君） 矢田万美子議員の質問にお答えいたします。

従来から各市営温泉には注意書をして、入浴に当たっての心得を脱衣所に張っているわけですが、入浴者が気持ちよく利用できるように努めているんですが、矢田さんが温泉施設を利用して不快な思いをしたというのは本当に残念でございます。市営温泉では、入浴者からの意見等についてはそのつど対応するように努めております。また行き届かないところはたくさんあると思いますから、気がついたらどんどん教えていただきたいと思えます。矢田さんの御意見のように決まりがちゃんとあるわけですから、今回は異性との10歳以上の混浴についてはできませんということを張り紙をしっかりと、徹底をしていきたいと思えます。貴重な御意見ありがとうございました。

9番議員（矢田万美子さん） ありがとうございました。これからはもっと入りやすい温泉になるといいですね。

議長（丸尾宗一郎君） 次に、20番議員青山中学校の大塚健一郎君の一般質問をお願いいたします。

20番議員（大塚健一郎君） まちづくりについての質問が3つあります。

最初に、湯布院駅には足湯があります。それが印象に残るので、また来ようという気分になります。別府にも別府駅や別府公園などの公共の場にそのようなものをつくるとよいと思います。そのような計画はありますか。

次に、ぼくたちが見る限りは、別府八湯の団結力が弱いように感じます。その団結力を強めるような対策を市役所は考えていますか。

最後に、安心院のグリーン・ツーリズムのまねで、温泉の熱を利用して栽培するシクラメン等別府の有名な伝統工芸の竹工芸を組み合わせた温泉ツーリズムのようなものをつくる計画はありますか。温泉をもとにして、それをアピールするまちづくりの発展を目指すように努力すると、さらによいまちになると思います。

以上の3点で質問を終わります。

企画財政部長（友永哲男君） お答えいたします。

八湯の団結力を強めるようにということについてのお答えをさせていただきます。

まず、お手元に別府市の温泉課がつくりました「湧く湧く（わくわく）百科」という資料を差し上げておりますので、ごらんになってください。それではお答えをいたします。

市役所では、市民が住みよいまちづくりを推進することが、多くの観光客に来ていただける楽しいまちになるというような考え方を持っております。別府八湯全域で連携交流をして、力を合わせたまちづくりを進めているところでございます。今、別府のまちをよくするために市民みずからが自主的に行うまちづくりが盛んに行われております。その代表的なものが八湯ウォークでございます。この八湯ウォークは、浜脇の浜脇温泉セピア色散歩、山の手のリトロ散策、堀田の堀田湯の里湯けむり散策、それから鉄輪の湯けむり散歩、亀川の人情のまち亀川悠々散策、竹瓦温泉界限（かいわい）の竹瓦界限路地裏散歩、こういうものが挙げられます。これらのまちづくりの活動をそれぞれが横の連携を取りながら、特徴のある活動をする必要で、八湯の団結をつなげるものだというふうに考えております。市といたしましても今後いろいろなものでサポートしていきたいというふうに考えております。以上でございます。

観光経済部長（東 昇司君） お答えいたします。

足湯の件でございます。最近の温泉ブームによりますと、足湯は観光の一つと考えております。足湯につきましては、全国にもめずらしい「温泉課」を中心といたしまして、現在、別府駅を中心にいろいろとできるかできないか一生懸命考えております。駅前通り、公共施設、または各市営区営温泉の前、これをつくりたいんですけれども、一番がやはりお湯の量であります。お湯の量があるかないか、そこを調べて、ぜひとも足湯はつくっていききたいと考えております。そういう中で先月13日のお盆ですが、上人ヶ浜にあります海浜砂湯の横に温泉課の職員が手づくりで足湯をつくって、8月13日のお盆の日にちょうどオープンしました。大変眺望もよく別府湾をながめられます。それが一つできまして、それがまた観光スポットの一つかと思っておりますが、今後さらに足湯がどこにできるか考えていきたいと思っております。大塚君もぜひ海浜砂湯の足湯に入っていただけたらと思っております。

次に、シクラメン等のツーリズムの計画があるかというお尋ねでございます。別府市内では温泉熱を利用した農産物の生産が行われております。花卉（かき）類ではシクラメンのほかに胡蝶蘭（こちょうらん）、カトレア、トルコ桔梗（ききょう）などが栽培されております。シクラメン等の花卉（かき）類と竹工芸の伝統工芸との組み合わせ、いわゆるツーリズムということでございますが、現在、別府市全体ですすでにツーリズムの推進室もできております。現在、計画策定中でもありますが、できるものから即実施していききたいと考えております。以上でございます。

市長（浜田 博君） 大塚健一郎議員の質問にお答えいたします。

八湯の団結力を強めるような対策は考えているかという質問につきましては、各まちづくりグループがお互いに連携を持ち、交流そして研究をして、自分たちの住むまちに誇りと愛情を持って八湯ごとの特徴を生かしていこうと、そういうまちづくりに取り組んでいけば、さらに別府八湯の団結力が強まるのではないかとこのように思っております。それらの活動を支援するために昨年の7月にまちづくり推進室が設置をされました。さらにその団体が連携して交流できるように泉都まちづくりネットワークを立ち上げまして、もうすでに2回の交流会が開催をされております。参加者は別府市内全域から113団体、個人のたくさんの方々が集まっておりまして、泉都まちづくりネットワークの輪もさらに広がってきております。その交流会では皆さん熱心

に別府八湯がどうしたら元気になるのかなと、このことを真剣に考えて、まちづくりの仲間のつくり方、さらにいろいろなお祭りの情報交換等についても話し合いを行ったりしているようです。この泉都まちづくりネットワークはいつでもだれでも参加することができるという、別府市の公式ホームページに活動状況を見ることができますので、ぜひごらんになっていただきたいと思っております。

次に、温泉熱の利用と竹の工芸を組み合わせた温泉ツーリズムをつくる計画はどの質問をいただきました。今、私が進めているまさに「ONSEN・ツーリズム」という言葉を使っていたことに本当に感心をし感動をいたしました。別府市では温泉の恵みにより今日まで観光地として発展してきたわけですが、さらなる観光振興のためには、現在ご質問の温泉熱の利用そして活用、それを含めて温泉資源の多面的な使い方を、いわゆる新しい産業として総合産業として位置付けております。そこで、いわゆる「ONSEN」と私はローマ字であらわしておりますが、「ONSEN・ツーリズム」の推進に向けて今市役所一体が勉強会をしてしっかりがんばっているところでございます。今後新しい形での具体的なツーリズムの計画が示されていくと思いますが、温泉ツーリズムはローマ字で「ONSEN」と表示して、その「ONSEN」はホットスプリング、いわゆる入って温まる温泉と、「音泉」とも書けますね。これをローマ字であらわしたのは、音の泉、いわゆる音楽タウン構想を出しております。路地裏のギターからカラオケからアルゲリッチの音楽祭、ジャズやクラシックなどいろいろな音楽が耳を澄ませば別府のあちこちから聞こえてくる、そういう音楽のあふれるまちづくりも目指しているところでございます。そういう意味でご質問の温泉といわゆる音の泉と書いて「音泉」と読んでいただいて、温泉利用と音楽のあふれるまちづくりを目指していきたいと、このように考えております。どうぞ大塚君にも新しいアイデア、構想がございましたら、ご提言をいただけるとありがたいと思っております。大塚君にはまちづくりの視点から今回のすばらしいご提言をいただきまして、本当にありがとうございました。

20番議員（大塚健一朗君） ありがとうございます。これからもがんばってください。これでぼくの質問を終わります。

議長（丸尾宗一郎君） 次に、21番議員中部中学校の久恒美由紀さんの一般質問をお願いいたします。



2 1 番議員（久恒美由紀さん） 中学校の総合的な学習の時間の授業で別府市について調べる機会がありました。その際に別府市役所のホームページを見ていると、平成14年7月号の市報の記事が目にとまりました。表題は「よみがえる別府の海岸」というもので、内容は現在テトラポットなどで埋められてしまっている海岸線を美しい砂浜によみがえらせるために、平成13年度から11年間で「別府港海岸保全施設整備事業」という取り組みが行われているというものでした。ヨットハーバーや遊歩道などできると聞き、今からとても楽しみです。

そこで質問ですが、海岸の環境整備に伴って別府湾の海の水自体をきれいにする取り組みは計画されていないのでしょうか。せっかく砂浜がきれいになっても、海自体が汚ければ海水浴もできません。もしも計画がないのであればぜひ計画してほしいと思います。

建設部長（金澤 晋君） 久恒さんのご質問についてお答えいたします。

別府湾の海の水をきれいにする取り組みの計画についてでございますけれども、別府湾に面する市町村の川から雨水や家庭で使った排水が流れ込んでおりますので、別府湾の水質に多少影響しているのではないかと考えているところでございます。別府湾の水自体をきれいにする取り組みにつきましては、別府市では川や別府湾の水質改善のため、公共下水道事業を昭和35年より実施しているところでございます。公共下水道事業と申しますと、川や海の水質環境保全及び公衆衛生の向上を目的に、家庭や工場から排出されます汚水を直接下水道管に集めまして、汚水処理場に運ばれた汚水をきれいな水にして川や海に流す仕組みを公共下水道と言っております。別府市におきましては、下水道管を埋設し、各家庭やホテルなどから出る汚水、この汚水と申しますと便所の排水、台所、お風呂、洗濯排水等が含まれますが、これらを競輪場の海側にあります汚水処理場の「別府市中央浄化センター」に送り、きれいな水にして別府湾に放流しているところでございますが、下水道工事におきましては、たくさんの費用と多くの日数が必要になってまいります。別府市では現在どこまで下水道の整備がされているかということをお申しますと、これは平成15年度末で58.6%の整備ができております。今後も下水道の整備を進め、皆さんが安心して海水浴等ができますよう別府湾の海の水をきれいにしていきたいと思っております。みなさんも一度汚水処理場の「別府市中央浄化センター」が亀川の方にありますが、

ぜひ見学に来ていただければありがたいなと思っているところでございます。以上で  
ございます。

市長（浜田 博君） 久恒美由紀議員の質問にお答えいたします。

みなさんが海や川をきれいにしようと、環境問題に関心を持たれることは本当にす  
ばらしいことだと思います。去る7月19日に海の日の前日でしたが、その日曜日に  
2,300人を超える多くの市民の皆さんに海岸清掃に参加をしていただきました。  
スパビーチ、上人ヶ浜公園、そして関の江海岸という別府のすばらしい海岸が美しく  
保たれております。久恒さんも市報等で知られていると思いますが、ことしから餅ヶ  
浜地区において海岸の工事がもう始まりました。ビーチバレーまたは海のそばでいろ  
んなイベントができるようになると思いますが、美しい海岸そして歩いて楽しい遊歩  
道もできます。駐車場もきちっと整備されますから、海が目の前に広がって、人々が  
海辺と触れ合える美しい景観を持った海岸が誕生します。皆さんもぜひ楽しみにして  
おいていただきたいと思います。

そして海岸を整備するだけではなくて、久恒さんのご質問のとおり別府湾の海の水  
をきれいにしなくてはなりません。その取り組みが必要だと思います。先ほど建設部  
長が答弁したように、公共下水道の整備、海岸清掃も一つの取り組みですが、海には  
道路に捨てられたごみなどが側溝とか水路、川を通して海に流れ込み漂流している事  
実がありますね。川や海を美しく保つために皆さん一人一人が環境に対する意識を持  
つことが本当に大切だと思いますし、別府のまちを美しくするという市民憲章の中  
でみんなが一緒になってごみのないきれいなまちづくりをしていこうという心がけが必  
要だと思っております。貴重なご質問、本当にありがとうございました。

21番（久恒美由紀さん） よくわかりました。下水道の方はこちらではできないので、川  
にごみなどを捨てないように心がけたいと思います。これで質問を終わります。

議長（丸尾宗一郎君） 次に、31番議員鶴見台中学校の鈴木美紗さんの一般質問をお願い  
いたします。

31番議員（鈴木美紗さん） 私は別府が温泉で有名だということはよく知っていますが、  
温泉に関する行事などはよくわかりません。大人は新聞や雑誌などをみてよくわかる  
かもしれませんが、私たちにとって「何のことかさっぱり」というのが現状だと思い  
ます。せっかく別府に住んでいるのでたくさん行事に参加をしたいです。でも日程な

どがわからず行けません。だから私たちが参加できるように小中学校の生徒に1人1枚ずつ行事日程などの事柄を手紙などで配っていただけたら、どんな行事があるかわかりやすく、子供たちが参加しやすいと思います。

そこで質問ですが、現在別府で行われているさまざまな行事はどのようにPRされているのか。またどのように考えているのか教えてください。

市長公室長（亀山 勇君） 答弁させていただきます前に、資料の方を各議員にお配りしたいと思いますが、議長の許可をお願いいたします。

議長（丸尾宗一郎君） 許可いたします。事務局は資料の配付をお願いいたします。

〔資料配付〕

市長公室長（亀山 勇君） それではお答えをさせていただきます。

鈴木さんは、私が今持っている「市報べっぴん」というものをごらんになったことがあると思います。今、別府市で行われている行事のPRにつきましては、毎月ご家庭に配ってございますこの「市報べっぴん」の中の「お知らせアラカルト」あるいは「イベント案内」の欄の中で案内をさせていただいております。また別府市の公式ホームページにおきましても「市報べっぴん」をごらんになることができますし、また「子ども広場」の「お知らせ」というコーナーでも市の行事を紹介させていただいております。またケーブルテレビの中で「別府市だより」という番組がございますが、この中で市の職員が市の行事等についてのご説明をさせていただいているところでございます。さらに毎年、もう一つ私が持っておりますが、別府市の行政カレンダーといったものも全家庭に配ってございます。この中でも行事あるいはお知らせ、そしてまた税金をいつ納めたらいいかといったような納期についてもこの中で掲載をさせていただいております。

そこで、今ご説明をさせていただいた行事の案内等の中でも、子供さんが参加される行事の内容も詳しく紹介をさせていただいているところでございますが、またこの行事の内容でお聞きになりたいことがございましたら、市役所広報広聴課というのが担当窓口になっておりますので、遠慮なく御連絡をいただければ説明をさせていただきたいと思っております。以上でございます。

市長（浜田 博君） 鈴木美紗議員の質問にお答えいたします。

子どもが参加しやすい行事のPRについて、本当にありがとうございます。私が最

近、本当にうれしく感じたのは、子供たちがたくさん参加していただいた夏祭です。たとえば駅前通りで「ワイワイ市」が復活しましたね。浴衣掛けで家族連れでたくさんの子供さんに参加していただいた姿を見て、本当に感動をいたしました。鈴木さんも家族の方と一緒に、ぜひ今月号の市報及びホームページに何か載っていないのかな、参加できるものはないのかなと、こういうふうに見つけていただいて、参加してくれると本当にうれしいと思います。これからは市役所の行事全般について、もっと子供たちがわかりやすいようなそういうことを工夫した市報をつくっていききたいと、このように考えております。ご家族と一緒に読んでくださると助かります。ありがとうございました。

3 1 番議員（鈴木美紗さん） ありがとうございます。私の意見について、いろいろと考えていただいたことに感謝します。これから新聞や市報を見るようにしていきたいと思います。

議長（丸尾宗一郎君） 次に、1 2 番議員石垣小学校の稲田恵さんの一般質問をお願いいたします。

1 2 番議員（稲田 恵さん） 学校の施設設備の充実について質問します。

私は5年生のとき、クラスのみennaと保護者の方と一緒に古くなっていた学校のトイレに新しく色を塗りました。最初は校長先生にお願いして、別府市にやってもらえないかと聞きましたが、「できない」と言われ、自分たちで色を塗ることにしました。季節は冬だったのでとても寒く、6時間以上もかかって作業をし、みんなペンキまみれになってがんばりました。また6年生がクラスで学校の施設について、学校全体で思っていること、望んでいることの話し合いをしました。その結果、グラウンドを広くしてほしい、図書室の本を入れ替えてほしい、教室移動が大変なので渡り廊下をつけてほしい、6月に教室の温度が32度、湿度が80%を超えているのでクーラーをつけてほしいなどたくさんありました。私たちはもっと学校が使いやすくなると思うのですが、自分たちの要望をどこにどんなふうに伝えたらいいかわかりません。教えてください。

教育長（山田俊秀君） お答えいたします。

今、グラウンドを広くすることや図書室の本を入れ替える、あるいはまた皆さんの学習環境をよりよくする要望とか、あるいは渡り廊下を設置してほしいとか、教室に

クーラーを取り付けることなどの学校の生活面で要望があったというふうに受けとめております。これらの要望は、先ほどもありましたように学級で友だち同士で話し合ったり、そういう話し合った意見を学級の先生に伝えたり、それから学校の校長先生に伝えていって、学校の校長先生を初めとするそういう方々で話し合っ、それを教育委員会の方に持ってくるようなシステムになっております。教育委員会はその要望を受けた内容について、安全面だとか衛生面、あるいはまた必要性などについて教育委員会の中で十分に話し合いをしていきます。そして皆さん方が学校で生活しやすい環境をつくるようにまた取り組んでいきますので、皆さん方もそういう意見がありましたら先生方にお伝えして、そういう意見を学校でまとめて教育委員会の方に要望をしていただきたいと思います。以上でございます。

市長（浜田 博君） 稲田恵議員の質問にお答えいたします。

稲田さんもお存じのように、学校にはいろいろな施設や設備があって、これらの施設等をよくするための要望のすべてを実現することはなかなかむずかしいことなんです、必要で急を要するものは順次計画的に整備を進めていきたいと考えております。特に学校の施設整備の充実につきましては、私も最重点項目に挙げてがんばっていきたいと思っております。ことしは南小学校全児童を初め、市内全校一年生から皆さんが毎日使うイスと机、木の温もりのある木製の机とイスに年次計画で全部変えていくようになりました。そのようにしっかり力を入れていきたいと思っておりますので、皆さんも友だちや先生方と話し合っ、楽しい学校になるようにがんばっていただきたいと思います。貴重なご質問をありがとうございました。

12番議員（稲田 恵さん） ありがとうございました。私たちの学校が一日でも早くもっと楽しくなることを願っています。これで私の質問を終わります。

議長（丸尾宗一郎君） 次に、23番議員北部中学校の若竹美里さんの一般質問をお願いいたします。

23番議員（若竹美里さん） たばこが及ぼす悪影響について質問です。

私は最近、家族でファミリーレストランに行きました。禁煙席に座りたかったのですが、禁煙席が空いていなくて喫煙席に座ることになりました。食事中もたばこのにおいで気分が悪くなったり、食事もおいしく感じませんでした。周りには小さな子どももいたので、無神経な人だな、せめて食事中くらいたばこを吸わなくてもいいので

はないかと思いました。たばこを吸うなどとは言えませんが、たばこが大嫌いな人もたくさん一緒の社会で暮らしています。何よりたばこの煙は喫煙する人より喫煙していない人の体に悪影響を及ぼしてしまうそうなので、公共の場ではすべて禁煙にするべきだと思います。

また、たばこのポイ捨てについても同じことが言えます。登校中、道端にたばこが捨てられているのをよく見かけます。学校のグラウンドの隅にもよく捨てられています。このように平気で捨てる人がいるので、吸った人が自分で管理するなどマナーを徹底するように、たばこのポイ捨て条例についてもっと考えた方がいいと思います。

別府市では、たばこが及ぼす悪影響についてどう考えていますか。条例の計画のことも併せて教えてください。

福祉保健部長（岡部光瑞君） 私の方からはたばこが及ぼす影響について答弁をさせていただきます。

たばこは百害あって一利なしと言われるように、体に対する影響が大きく、またたばこを吸う人ばかりではなくて、周りの人にも影響を与えるということが言われております。たばこの煙は肺ガンだけではなく、ほかのガンや心臓病などにも影響をしてくるということで、非常に迷惑がられているのが状況でございます。その上、吸い出したら止められないという依存という状況になりやすく、これも大きな社会問題になっております。別府市では、市民の皆さんのための健康づくり計画、「湯のまちべっぴん健康21」を策定しまして、現在取り組んでおるところでございます。この内容は市報やホームページを通じて皆さんにお知らせしております。その中で禁煙を呼び掛けたり、市役所の中では分煙に取り組んでおります。また市役所関係の公共の場では、禁煙や分煙に取り組むよう協力をお願いしているところでございます。以上でございます。

生活環境部長（高橋 徹君） 条例のことについてお答えをいたします。

たばこのポイ捨てにつきましては、別府市では地域を指定いたしましてたばこのほか、空き缶、ごみの散乱防止、放置自転車の禁止等の条例をつくっております。ですが、道路端にはたばこなどが捨てられているのが現状でございます。また、ことしの4月から県の方がたばこの吸い殻を含んだごみのポイ捨てを禁止することを織り込みました条例をつくっております。今後はたばこのポイ捨て禁止などを市報で呼び掛け

たり、条例の見直しを行ったりしていきたいと考えております。以上でございます。

市長（浜田 博君） 若竹美里議員の質問にお答えいたします。

たばこを吸う人は決められた喫煙の場所で吸うというルールを守っていただいて、それ以外の場所や路上では人の迷惑になるだけではなく、やけどなどの事故につながるのではないかと思いますし、たばこのポイ捨てにもつながりますから、きちんとマナーを守っていただくということが大事だと思っております。たばこのポイ捨てについては、今別府市では地域を指定してたばこのほか空き缶とかごみの散乱防止、放置自転車を禁止する条例をつくっております。しかし、道路にはたばこやごみが捨てられているのが現状ですね。そういう状況の中でことしの4月大分県で今部長からお話がありましたように、たばこの吸い殻を含んだごみのポイ捨て禁止を盛り込んだ条例をつくりました。別府市でもこのたばこのポイ捨て禁止など、市報でしっかり呼び掛けながら条例の見直しも考えていきたいとこのように考えております。貴重なご提言ありがとうございました。

23番議員（若竹美里さん） ありがとうございました。これからもその取り組みを続けていってほしいと思います。これで私の質問を終わります。

議長（丸尾宗一郎君） 次に、2番議員境川小学校の若浦三枝子さんの一般質問をお願いいたします。

2番議員（若浦三枝子さん） 老人ホームの広場について質問します。

私は、1年生のころからデイサービスに行っています。おばあちゃんやおじいちゃんが私たちが来るのを楽しみにしています。デイサービスでは、七夕、運動会、クリスマス会などをします。運動会では部屋の中は50人くらいでいっぱいになり、窮屈でがまんしています。そのとき、おばあちゃんが「もっと広い庭で一緒に遊べたらいいのにね」と言っていました。私も前からもっと広いところでたくさんのおばあちゃんたちと遊びたい気持ちでいっぱいでした。6年間のデイサービスの交流をこのまま終わらせたくありません。私はおじいちゃんやおばあちゃんと安全に、そしてもっと思い切り遊べる広場が欲しいです。デイサービスの施設を少しでも変えていくことはできないでしょうか。

福祉保健部長（岡部光瑞君） お答えいたします。

老人ホームに交流ができる広場をつくってほしい、できないかということでござい

ますが、別府市内の老人ホームの施設は、自分の身の回りのことができる方が入所する施設として養護老人ホームが3施設、介護が必要と思われる方が入所できる施設として特別養護老人ホームが6施設、身寄りのない方または家族の事情等によって家族との同居が困難な方が入所できる施設として軽費老人ホームが6施設、その他の施設として有料老人ホームがあります。その中で広場がある施設は、別府市が運営しております養護老人ホーム・扇山となっております。この施設も昭和46年に開設されて、現在老朽化（年月がたち古くなった様子）しております。今後、建替え等を検討しているところではありますが、その際には交流等ができるより広い広場をつくりたいと考えております。その他の老人ホームにつきましては、隣が住宅であったりすることから、周りに空き地がなく、現在の敷地に広場をつくることはむずかしいという返事をいただいております。このような状況ですので、それぞれの施設では工夫して建物の中に広場に代わる空間をつくっている施設もあります。三枝子さんがデイサービスに行って交流する部屋が少し狭いという話も聞きましたので、そのことも私どもで検討いたしたいと思いますが、交流ができる空間をふやす努力をしていきたいと考えております。以上でございます。

市長（浜田 博君） 若浦三枝子議員の質問にお答えいたします。

別府市では、交流のできる場所として、老人ホームではありませんが、お年寄りやお母さん、お友だちが一緒になって昔の伝統を子供たちに伝えることによって仲良く遊び触れ合う世代間交流事業、卓球教室ではフレンドなど世代の違う人々の交流を図る事業を今実施をしております。また地域での世代間の交流の場としてもことしの10月に北部のコミュニティーセンター・あすなる館がオープンいたしますので、若浦さんも利用してみたいと思います。若浦さんがこれまでデイサービスに行っていることを聞きまして本当に感動をいたしました。若浦さんにはお年寄りを大切に作る心をいつまでも持ち続けてほしいなと思います。心温まるご質問どうもありがとうございました。

2番議員（若浦三枝子さん） よくわかりました。おばあちゃんやおじいちゃんが楽しく安全に遊べる施設をつくってください。これで私の質問を終わります。

議長（丸尾宗一郎君） 次に、7番議員南立石小学校の繁昌大介君の一般質問をお願いいたします。



7 番議員（繁昌大介君） みんなが楽しめる複合施設の計画。南立石小学校・繁昌大介。

最近、市内で外国の方をよく見かけます。A P U の学生さんだけではなく、観光客もたくさんいると思います。外国の方に限らず、初めて別府に来た方たちは、どこにどんな施設があるのかが全くわからないし、言葉も通じずに困っている方も多いと思います。そんな方々のために案内所をつくり、別府の売りである温泉もあればきっと喜んでもらえると思います。そしてそこにわさだタウンのように大きくてきれいな映画館やボーリング場などがあれば、住んでいるぼくたちも楽しみ、観光客と別府市民とが一緒に利用することで交流の場も広がるのではないのでしょうか。

そこで、市長さんにお聞きします。観光客にやさしい別府市をつくっていくため、住んでいる人たちが楽しめる別府市にするために、今後どんな計画があるのか教えてください。

観光経済部参事（山川浩平君） お答えを申し上げます。

案内所の設置について、まず御答弁をしたいと思います。

外国人の方、一般観光客の方を問わずいずれも J R 別府駅の中に案内所をすでに設けております。この中で年間、多くの方にはご利用いただいておりますけれども、特に外国人の方、今ご質問にございましたように外国人の方は地理に不慣れでございます。そのために別府では特に全国でも結構めずらしいんですが、「外国人観光客案内所」というのを J R 別府駅の中に設けております。この中では、英語、中国語、韓国語の通訳ができる方がボランティアとして 1 年間全く休みなしのような状態でいろんな通訳をしていただいて、観光施設、交通機関であったり宿泊施設、そういうものの御案内をいたしております。これと併せて案内板というご質問だったわけですが、いわゆる案内板は今観光課ではパンフレットという形で、案内板として補えないものはパンフレットで整備をさせていただいて、英語、中国語、韓国語すべてあります。通常は案内板で整備をするわけですが、案内板は今言いましたように主要な交通機関の窓口、いわゆる別府駅であったり、観光港であったり、北浜のバスセンターであったり、そういうところには一応総合案内板を設置して、それをみていただくというふうにいたしております。観光地として今御指摘がございましたように、まだまだ整備をしないといけないことはたくさんございますけれども、私ども今一生懸命努力いたしておりますので、またい

るいろいろご提言がありましたら今後ともよろしくお願ひしたいと思います。以上でございます。

観光経済部長（東 昇司君） お答えいたします。

ご質問の大きくてきれいな映画館、またボーリング場があればというご質問でございます。観光客の皆様によさしく、住んでいる人たちが楽しめる別府市にしたいとのお気持ちは、私たちと全く同じであり、大変うれしくまた頼もしく思いました。別府市にいやしや憩いを求めてくる観光客の方々に温かくおもてなしし、くつろいでいただき、同時に市民の方々と交流しながら、一緒に楽しんでもらえる施設やイベントがたくさんあることは、よいことだと考えております。現在、別府市民の方々が大分に映画を見に行ったり、買い物に行ったりという話をよく聞きます。別府市といたしまして楠港跡地に複合商業施設の誘致に向けまして、現在委員会を設置し、検討を重ねているところでございます。ご提言ありがとうございました。

市長（浜田 博君） 繁昌大介議員のご質問にお答えをいたします。

今、観光経済部長が答弁をいたしました。温泉祭りや夏祭など1年を通じてさまざまなイベントを今行っております。普通の土曜日、日曜日にも家族で出かけ楽しめるという観光客と交流できる施設がもっとあったらよいのではないかなと考えました。

そこで、今ご提言がありましたように、みんなが楽しめる複合施設、今「冬のクリスマスHANA B Iファンタジア」の会場になっています楠港埋立地に来てもらう計画を行っているところでございます。これらの施設は、観光客とそして市民の皆さんが交流する場となってほしいなということを目指しております。詳しくは市報とかホームページに掲載をしておりますから、またごらんになっていただきたいと思ひます。これらの複合商業施設が別府市民の日常のいわゆるショッピングだけではなくて、観光客や近隣の市町村の方々も来場してほしいなという気持ちもありますし、何としまも皆さんが楽しめる施設となってほしいという思ひでございます。現在、どんな施設が別府市にふさわしいかを選んでいただいておりますので、これが選ぶことができましたら、皆さんにお知らせをして皆さんの意見もしっかり聞きたいと思っております。楽しみにしていただきたいと思ひます。貴重なご質問を本当にありがとうございました。今後もまたご意見等がありましたらお寄せいただきたいと思っております。あり

がございました。

7 番議員（繁昌大介君） よくわかりました。これでぼくの質問を終わります。

議長（丸尾宗一郎君） 次に、5 番議員西小学校の加藤優志君の一般質問をお願いいたします。

5 番議員（加藤優志君） お年寄りや体の不自由な方の福祉バスについて質問します。

西小学校は、中島町、光町、朝見町、原町、そしてぼくが住んでいる乙原の5つの地区があります。乙原地区は自然がいっぱいで、空気がおいしく、ながめもすばらしく、大変環境のよい所です。また新しいラクテンチがオープンして前よりもにぎやかになりうれしく思います。でも非常に困っている問題があります。それは交通機関の問題です。以前は乙原に住んでいる人たちはケーブルカーを利用できていましたが、今は通学のときにしか利用できません。そして定期バスが通っていないためお年寄りの人が病院に行くときは、タクシーなどを利用しなければなりません。近くに住んでいるお年寄りに聞いたところ、タクシーにかかるお金も安くないため、病院に行くのを3度に1度は我慢（がまん）すると言っていました。

そこで質問です。乙原に住んでいる人たち、中でもお年寄りが安全に安心して生活し利用できる福祉バスを走らせたりする計画はないのでしょうか。もしなければぜひお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

福祉保健部長（岡部光瑞君） お答えいたします。

乙原地区に路線バスが通っていないので、お年寄りが病院に行くときなど交通の手段がないため福祉バスをお願いしたいという質問でございますが、別府市全体を見ても乙原地区以外にも路線バスが走っていない地域もあります。また路線バスが走っていても1日に数本しかないという地区もあります。東山、内成、天間などがその地域に入っています。またバスを必要とする方は高齢者に限らず自分で車やバイクが運転できない方、それらの人全部に関係してきます。今後は生活維持路線、生活するために必要な路線の見直しを含めて一度協議をしていかなければならないというふうに考えております。別府市におきましては、今後高齢者が外出するための支援として、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活ができる環境づくりなど十分に考えながら、現在福祉施策をいろいろ取っておりますが、その事業と調整を図って福祉バスができないか検討していきたい、考えていきたいというふうに思っております。以

上でございます。

市長（浜田 博君） 加藤優志議員の質問にお答えいたします。

別府市では、利用状況の確認やバスを経営する会社等との話し合いをしております。努力をしていきたいと考えております。特に乙原の皆さんのことを本当に心配をしていただいております。ありがとうございます。乙原の皆さんのことももちろんですが、東山、内成、天間、そういう郊外の地域に住む人たちにも利用できるようにしなければ、市内のすべてのお年寄りを公平に扱うことになりませんので、その辺をよく考えていきたいと思いますが、福祉バスいわゆる別府市が実施をする他の福祉事業との調整をしながら、こういう福祉バスその他の交通用具も含めて福祉バス導入に向けて慎重に考えていきたいと、このように考えております。思いやりのある質問、本当にありがとうございました。加藤君には今後ともお年寄りやそういう皆さんを思うやさしい気持ちを持ち続けていただきたいと思っております。ありがとうございました。

5 番議員（加藤優志君） よくわかりました。これでぼくの質問を終わります。

議長（丸尾宗一郎君） 以上で一般質問を終わります。

休憩いたします。

午前 10 時 51 分 休憩

午前 11 時 5 分 再開

議長（三浦 望さん） 再開いたします。

日程第 5 により、提言の発表を行います。発表者は 12 名です。発言の順序により発表をお願いいたします。

最初に、26 番議員浜脇中学校の森浩輝君に提言の発表をお願いいたします。

26 番議員（森 浩輝君） 学校施設・設備の要望についてお願いします。

まず階段に手すりをつけてほしいということです。私は足を怪我して 1 カ月近く松葉杖を使って学校生活を送っていました。それで階段を昇り降りするときに手すりがなく、非常に苦労しました。時には後ろに倒れそうになったりして、人に支えてもらったときもありました。このことがあってから私は手すりの必要性を強く感じ、階段に手すりをつけてほしいと思いました。

そのほかにハンディキャップを持った人への配慮が足りない部分が幾つかあります。たとえば学校には障害者用のトイレが一つしかなく、特に 1、2 年の校舎には全くバ

リアフリーの設備はありません。このことを期に学校のバリアフリーに力を入れてもらいたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

議長（三浦 望さん） 次に、16番議員東山小学校の大野真希さんに提言の発表をお願いいたします。

16番議員（大野真希さん） 東山の川から見た別府市の自然環境。

東山は別府市の山間（やまあい）にあり、自然に恵まれた所です。私たちは今、総合的な学習の時間に東山の川について調べています。6月にクラスみんなでメダカを探りにいきました。田んぼの横を流れる川などをのぞくと小さな魚の姿を見ることはできますが、網ですくって調べてみるとメダカではありませんでした。2時間ほどいろんな場所で探してみましたが、メダカの姿を見つけることはできませんでした。田んぼで働いていた人にメダカのことを聞いてみると、「昔はいっぱいいたのに、今はいないなあ」と言われました。メダカは絶滅危惧種（ぜつめつきぐしゅ）と言われ、自然環境の影響を受けやすいことは知っていましたが、1匹も見つけることができなかったのはショックでした。6月の終わりに東山には大分川の源流があるそうなので、地域の方に案内してもらい行ってみました。源流は水温が15度で手をつけてみるととても冷たく、長くはつけていられませんでした。私たちは持って行ったペットボトルに水をくんで水質測定をしてみると、ほとんど汚れのないきれいな水であることがわかりました。でも、昔はエノハなどもたくさんいたそうですが、今は釣ることもむずかしくなったそうです。源流ではきれいな水があるのに、数キロメートル山を下った所ではメダカの姿も見ることができません。これは私たち人間が勝手に環境破壊したためだと思います。もしそうなら環境を取り戻すのも私たち人間の責任だと思います。

別府市は海と山に囲まれた自然に恵まれたまちです。ぜひ自然環境の保護に力を入れたまちづくりを行っていただきたいと思います。

これで私の提言を終わります。

議長（三浦 望さん） 次に、14番議員緑丘小学校の藤井紗綾さんに提言の発表をお願いいたします。

14番議員（藤井紗綾さん） 私は別府市竹細工伝統産業会館を見学しに行ったことがあります。行ってみると別府の竹細工が有名なことがよくわかります。しかし、現在竹細

工を含む伝統工芸品では後継者不足が問題になっているそうです。

もう一つ問題があります。それは安い人件費を使うベトナムや韓国での生産品がどんどん入ってきているということです。何と別府市全体での竹細工は、ほぼ輸入品だそうです。私は輸入品より別府市の人が一つ一つ丁寧に心を込めてつくった竹細工をいろんな人に知ってほしいと思います。私の学校は給食のお皿をよく割ると言われます。今の皿は重たくて割れやすいので大変です。

そこで、お皿を竹にしてみてもどうでしょうか。竹だったら軽いし割れにくいです。しかももっと別府市の竹細工が有名になると思います。給食の皿を竹にするというのはいろいろな問題点があると思います。でも学校みんなは喜ぶと思います。

議長（三浦 望さん） 次に、6番議員青山小学校の松田佳恵さんに提言の発表をお願いいたします。

6番議員（松田佳恵さん） 私は5年生のときに総合的な学習の時間でまちづくりについて学びました。その中で興味を持ったユニバーサルデザインで進めるまちづくりについて提言します。

「バリアフリー」という言葉をよく聞きます。これはハンディキャップを持つ人にとっての暮らしの障壁（しょうへき）を解消していこうという考えです。私たちの別府市でも道路、建物の段差をなくすことから始まり、点字ブロックや温泉案内などさまざまな角度から障壁の解消が試されています。

一方のユニバーサルデザインは、バリアフリーより一歩踏み込み、だれもが利用できる製品や住宅、空間などをつくる試みです。改造や特別な設計を必要としない形で最初からすべての人が利用しやすく設計されたものです。

そこで次のことを提言します。

別府市のまちづくりにはユニバーサルデザインの考え方を取り入れていくことです。たとえば歩道橋です。歩道橋は安全に道路を横断するために便利な施設ですが、見かける歩道橋は決してすべての人に便利だとは言えません。お年寄りや階段を昇り降りするのがつらいでしょうし、車イスを利用する人、ベビーカーを押す人は昇ることすらできません。ここにユニバーサルデザインの考え方を取り入れてほしいわけです。新設する歩道橋にはぜひスロープを設置するなどして、すべての人が便利に利用できるようにしてほしいと思います。別府市には子どもからお年寄り、男性や女性、ハン

ディキャップを持つ人、外国の方などいろいろな人が暮らしています。ある特定の人のためという考え方ではなく、初めからすべての人にやさしい施設を整え、暮らしやすいまちづくりを望んでいます。

議長（三浦 望さん） 次に、18番議員山の手中学校の堀友美さんに提言の発表をお願いいたします。

18番議員（堀 友美さん） まちづくりについて。

現在、別府は観光地として有名ですが、昔ほど宿泊客が多くありません。高速道路が開通し交通の便がよくなったのも一つの要因だと思いますが、それだけではないように思います。時代の流れと言えばそれまでですが、もう少し古いものを大切にしていけることはできないでしょうか。最近、温泉施設の建替えが目につきます。古いものを壊して建て直すのは簡単です。それを修繕しながら大事に使っていくことはできないでしょうか。情緒（じょうちょ）ある町並みづくりが大切ではないかと思います。観光客がもう一度来たいと言ってくれるような別府をつくっていってくれることを期待します。別府の浮沈（ふちん）はそこにかかっていると思います。

議長（三浦 望さん） 次に、13番議員春木川小学校の青山頌司君に提言の発表をお願いいたします。

13番議員（青山頌司君） ぼくには1歳の弟がいます。母が毎日の買い物に行くときに手伝いで弟を乗せて乳母車を押しています。そのときにいつも通りにくい場所があります。コンクリートの道なのですが、穴が空いていたり凸凹したりしていて、車輪が落ち込み力を入れないと前に進みません。それにこの別府にはお年寄りがいっぱい住んでいます。ぼくのうちの祖母は95歳ですが、近くの病院に荷車を押して外出をしています。途中で何度か道路のくぼみに落ち込んで進めなくなったことがありました。そんなとき母がすぐに荷車を押してあげています。このように少し散歩に出かけたり外出したりするときでも、お年寄りや小さい赤ちゃんのいるお母さんは大変苦勞をしています。予算の都合で全部の道路が無理なら、このような人たちが多く住んでいる地区から先に段差をなくして平坦な道にしてほしいと思います。

これでぼくの提言を終わります。

議長（三浦 望さん） 次に、10番議員上人小学校の小城愛さんに提言の発表をお願いいたします。

10番議員（小城 愛さん） 私はお年寄りも利用しやすい校区の温泉設備について提言します。

私たちの校区には公衆浴場がたくさんあり、校区のお年寄りもよく利用しています。私もときどき利用していますが、お年寄りには不便だろうなと思うことがたくさんあります。

まず、浴場のタイルのことです。お湯や石けんが少しでもついていると、とても滑りやすく危険なので、湯船まで滑りにくいタイルや素材のもので通路をつくと安全でいいなと思います。

次は、脱衣場の柵のことです。脱衣場の柵は中央のあたりが一番使いやすいですが、混んでいるときには空いていないときが多く、高い所や低い所を使っているお年寄りもいます。そんなお年寄りを見ていると、腰をかがめたり背伸びをしていたりして、危ないなと感じます。それで私は柵の部分を色分けして、高齢者の色を決め、ほかの人の使用をなるべく少なくするようにしてはどうでしょうか。すべてを使えなくするわけにはいかないと思います。なぜなら怪我をしている人や赤ちゃんのいる人もいますからです。

最後は、入口のスペースのことです。亀川温泉の入口は狭く段差があるので入りづらくて、腰や足の悪いお年寄りが杖などで歩いていると困っているように思います。なので入口の段差をなくすため緩いスロープをつくり、スロープも水などで濡れても滑らないような素材を使いつくるようにしてほしいと思います。

そのほかにも階段や湯船に手すりをつけてほしいと思います。手すりも木製のものがいいのではないのでしょうか。金属のものでは滑りやすく温かみがないような気がします。

別府は温泉のまちです。だからこそ私はお年寄りも含めてだれもが利用しやすい公衆浴場をつくるのが大切ではないかと思います。

議長（三浦 望さん） 次に、24番議員北部中学校の江藤知美さんに提言の発表をお願いいたします。

24番議員（江藤知美さん） ワンダーラクテンチのあり方についての提言です。

企業のものでありますが、歴史のあるラクテンチは別府市民の大切な財産です。そこで市の行政や市民一人一人もワンダーラクテンチのあり方について考えるべきだ



と思い、私の考えを提言いたします。

私はまだワンダーラクテンチに行ったことがありません。なので行ったことのある知人に話を聞いてみると、「一度行けばいいって感じかな」と言われました。つまりリピーターが少なくなる可能性があるということです。最初の方は繁盛しても根強い人気があれば、近いうちにつぶれていくと思います。ですが、リピーターをつくるにはまず客を呼ばなくてはなりません。

そこで私が考えたのは、子供たちが行きたくなる遊園地をつくるということです。子どもが来ればそれに同伴して大人たちも来ます。そうすれば遠方から来た人たちがラクテンチ以外の魅力に気付いてくれるかもしれません。たとえば別府の低額で入れる温泉などにです。そうすれば次は温泉目当てで来る人たちがふえると思います。

そう言えば前回の子ども市議会の提言で足湯について述べている方がいらっしゃいましたが、あの意見をもっと取り入れて駅などに無料の足湯などをつくれれば、それを目的にして来る人が出てくるかもしれません。つまりリピーターが増加します。リピーターが増加すればかなり長い間経営を続けていられます。この別府市も以前のように輝き出すかもしれません。

さて、話は少し前に戻ります。子供たちが行きたくなる遊園地についてですが、私はもっと動物をふやすべきだと思います。なぜなら遊具だけでは子供たちが飽きてしまうからです。いつ行っても同じものだとその人気はいつしか薄れてきます。それに小さい子どもにはやはり触れ合えるものが一番楽しいと思います。なのでより多くの動物を園に入れた方がよいのではないのでしょうか。それから小さい子向けのイベントを開くのもおもしろいと思います。アンパンマンのショーや漫画博覧会などをやれば、子ども連れの方々や友だち同士でくる方々もふえると思います。

これでワンダーラクテンチについての提言を終わります。

議長（三浦 望さん） 次に、15番議員大平山小学校の中原豊梧君に提言の発表をお願いいたします。

15番議員（中原豊梧君） ぼくは通学路について提言します。

大平山校区の通学路を友だちと一緒に歩いてみました。ほんの30分ほどの短い時間でしたが、次のような問題点を見つけました。

まず一つ目に、木がたくさんあって、暗くて、整備されていない所があります。

次に、溝に柵がなく、落ちそうで危険です。そして、横断歩道や白線が消えている所が多いということです。それ以外にも危険な所がたくさんありました。

ぼくたち6年生は、気をつけて歩けば大丈夫ですが、大平山小学校には400人以上のかわいい、かわいい後輩がいます。ですから、通学路の整備をしてみんなが安全に楽しく登下校してもらいたいと思います。よろしく願いいたします。

議長（三浦 望さん） 次に、4番議員南小学校の秋吉諒二君に提言の発表をお願いいたします。

4番議員（秋吉諒二君） 公園のゴミ箱について提言します。

去年、公園にゴミ箱がないのはなぜかと質問したとき、家庭のゴミなどが捨てられ、ゴミ箱からゴミがあふれてしまうからということでした。家庭のごみが公園に捨てられていることを聞いて、嫌な気持ちになりました。自分の家のゴミを公共の場所に捨てる人がいることに腹が立ちました。

そこでぼくは、平気でゴミを捨てられないようにゴミ箱の工夫をしたらよいと考えました。テレビで見たのですが、大阪大学では人にやさしいゴミ箱をつくって、ポイ捨てを防いでいます。そのゴミ箱の工夫は3つあります。

1つ目は、ゴミ箱の上にゴミが置けないようにゴミ箱の上を斜めにしていることです。

2つ目は、ゴミの投入口がゴミの入れやすい高さになっていることです。

3つ目は、分別しやすいように色分けしていることです。

そこで別府市もゴミ袋と同じように色分けして、分別しやすいようにしたらよいと思います。公園を利用する人がポイ捨てをしないように心がけ、みんなが気持ちよく過ごせる場所になってほしいです。

議長（三浦 望さん） 次に、8番議員鶴見小学校の首藤亜梨沙さんに提言の発表をお願いいたします。

8番議員（首藤亜梨沙さん） 私は別府に流れている川について提言します。

私たちが住んでいる別府には、朝見川、境川、春木川という3つの大きな川があります。その川はよく整備されていますが、その川の水は水遊びができるほどきれいなのではないでしょうか。よくみると所々にゴミがあったり、濁ったりしています。だからといって、すぐに下水処理場をつくったりするのは無理があります。

そこで川をこれ以上汚さないために、今私たちができることは、川にゴミを捨てないようにしたり、油や洗剤などを流し込まないように工夫したりすることだと思います。将来、別府のまちの川はとてもきれいですよと別府に住んでいる私たちが自慢できるように、今できることから初めていき、いつか水遊びさえもできるようなきれいな川になってもらいたいと思います。

議長（三浦 望さん） 次に、30番議員東山中学校の工藤瑞紀さんに提言の発表をお願いいたします。

30番議員（工藤瑞紀さん） 私はゴミ問題について提言します。

先日、委員会の活動で学校周辺のゴミ拾いをしたときに、すごくたくさんのごみがありました。私が住んでいる東山にはたくさん自然があります。でもその自然の中にたくさんゴミがあると、きれいな緑も台無しになってしまいます。ゴミの量を減らすには、まず別府市民がゴミのポイ捨てをしないことだと私は思います。そして市民全員が心がけて別府市をきれいにしていけば、観光客も汚してはいけないという気持ちになってくれるのではないのでしょうか。観光客にとっても市民にとっても心地よいまちやきれいな海や山にするには、ポイ捨てを辞めて、まちなどでゴミをみつけたら拾うことだと私は思います。そのために広告やテレビや看板などでポイ捨て禁止を呼び掛けてください。別府市民への呼びかけをよろしくお願いします。

これでゴミ問題についての提言を終わります。

議長（三浦 望さん） 以上で提言の発表を終わります。

次に、日程第6議員提出議案第1号子ども宣言についてを議題といたします。

提出者の19番議員青山中学校の佐藤千種さんから提案理由の説明をお願いいたします。

19番議員（佐藤千種さん） 「住みよい町別府」子ども宣言

私たちはこの市議会の機会に、自分たちの住んでいる別府について考えてみました。未来に生きる子供たちが住みやすい別府をつくり、豊かな自然と別府独自の湯けむりを誇りとし、市民全ての人が笑顔でいられるように、ここに次のことを約束し、実行していくことを誓います。

1. 豊かな自然を守るために、資源を大切にし、別府を美しい町にします。
2. 学校の友達、地域の方と楽しく過ごすために、人を思いやり、協力してものごと

を行います。

3. 別府を明るい町にするために、人と人とのコミュニケーションを大切にしていきます。

以上宣言いたします。

平成16年8月19日

べっぷ子ども市議会

議長（三浦 望さん） ただいま提案されました議員提出議案第1号子ども宣言についてに賛成の皆さんの起立をお願いいたします。

〔賛成者起立〕

議長（三浦 望さん） 起立全員であります。

よって、議員提出議案第1号子ども宣言については、全員一致をもって可決されました。

以上で議事のすべてを終了いたしました。

これをもって第2回べっぷ子ども市議会を閉会いたします。

午前11時32分 閉会



べっぷ子ども市議会会議録をここに署名する。

平成16年8月19日

べっぷ子ども市議会議長 丸尾 宗一郎

署名議員 首藤 亜梨沙

署名議員 中原 豊梧

署名議員 堀 友美

## 閉 会 式

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 1.市議会議長あいさつ  | 清 成 宣 明 市議会議長 |
| 2.市長あいさつ     | 浜 田 博 別府市長    |
| 3.記念品贈呈      | 山 田 俊 秀 教育長   |
| 4.子ども議員代表者謝辞 | 宇都宮 渚 子ども議員   |





## [ 閉 会 式 ]

市議会事務局主事（遠藤 緑さん） 続きますして閉会式を行います。

まず最初に、清成宣明市議会議長よりごあいさつを申し上げます。

市議会議長（清成宣明君） 今、別府市議会の議長を務めさせていただいております清成と  
いいます。約3時間に及ぶ議会、本当にお疲れさまでした。前から見させていた  
だきましたけれども、本当に態度も姿勢もりっぱにできたと思います。1週間ほ  
ど前のリハーサルするときとは全然皆さん別人になったみたいになりっぱだったらと  
思います。

それから、答弁がたくさんありました。また提言に対する答えもちゃんと用意  
をして、きちんと整理をして皆さんのもとにお配りをするということになってお  
りますから、提言の中に答弁がなかったというふうに思わないでください。ちゃ  
んと執行部の方がそれぞれにお答えを出していただいていると思います。

去年は小学生だけだったんですけれども、ことしは中学校の生徒も入って少し  
幅が広くなりました。お兄さん、お姉さん、逆に弟、妹の中でこういう議会がで  
きて大変喜んでおります。というのは、少し幅を広げたためにお兄さん、お姉さ  
んは何を考えているのかなと、弟、妹は何を考えているのかなというのがわかっ  
たのではないかなと思います。

今、別府市議会の議員さんは、一番若い人から一番高齢の方を見ますと50歳  
の差があるくらいの数で構成をされていますから、いろんな意見が出てまいりま  
す。そういったいろんな意見を聞きながら、また自分たちの意見を形成をしてい  
くという場所がこの議会です。そしてその合議（ごうぎ）をもっているんなこと  
を決めていくのが民主主義でもありますし、少し時間がかかりますけれども、い  
ろんな意見の調整をしていく場所がこの議会本会議場であります。

答弁の中で、首藤貴博1番議員さんには、野口小学校区の公園の問題が出て、  
今できませんとはっきり断られて少しショックだったかなという気もします。そ  
れから9番議員の矢田議員さんは、おじさんから見ると公衆浴場法に10歳以上  
は混浴をしてはならないという法律があるのを、実はきょう初めて条例があるこ  
とを知りました。いろんな意味できょうは勉強をさせていただきましたけれども、  
本当に皆さん方のそれぞれの立場から、あるいはまたそれぞれの家庭あるいは学

校周辺からの意見をたくさんいただきましたことに、心から感謝を申し上げたいと思います。

これを縁として、また皆さん方がそれぞれの意見を持ちながら、大きく成長していただいて、きょう発言をしていただいた言葉が記録として会議録として残るわけですから、ぼくはこんなことを言ったよ、私はこういう提言をしたよということが記録に残りますから、逆に言えば皆さん方の立場としては言った言葉には責任を持たなければならない。責任を持つということは、行動にも責任を持たなければならないわけですから、きょう32名の議員さん方も今からちょっと大変な立場になるのかなという思いも持っております。

これからの毎日の学校生活あるいは子供会も含めて、しっかり勉強していただくように心からお願いをいたします。

それから、前におられる子供会を支える議員連盟の皆さん、それからPTAの関係者、また一生懸命わかりやすい言葉で答弁をしていただきました執行部の皆さんにも、心から感謝を申し上げたいと思います。いずれ皆さん方が大きくなったときに、本当の議員さんとしてここに登場してくれることを心から期待をしたいと思います。

最後になりますけれども、中学3年生は14、5歳でしょうけれども、福原愛ちゃんみたいに15歳でオリンピックに出てがんばっている子どもたちもいます。ああいった全国的に活躍できる子供たちに負けないように、精いっぱい別府からもすばらしい子供たちが誕生することを心から期待をしております。本当にきょうはお疲れさまでございました。御苦労でございました。

それから、傍聴席におられる保護者の皆さん、そしてきょう引率をしていただきました先生方、本当に子供たちをここまでご指導いただきましたことに、心から感謝を申し上げたいと思います。3回目ができるのかまだ決まっておりませんが、できる限り続けていきたいという思いでもありますので、また今後ともご協力を賜りますように心からお願いを申し上げます。

本日はありがとうございました。感謝申し上げます。（拍手）

市議会事務局主事（遠藤 緑さん） 続きまして浜田博市長よりごあいさつを申し上げます。

市長（浜田 博君） みなさん、きょうは本当にありがとうございました。今、議長からも

お礼がありましたように、今回は小学生に中学生が加わりました第2回の子ども市議会、まさに観察力するどい質問もありました。そしてすばらしい提言もいただきました。さらには「住みよい町別府」子ども宣言までいただいて、本当に中身の濃い子ども市議会になったと心から感謝を申し上げたいと思います。

一般質問では、教育の問題が多いのかなと思っていたんですが、驚きました。まちづくりの問題、福祉の問題、環境の問題、それから観光、国際化、そしてまた教育もありました。本当に私はすべての行政分野に及んだ質問をいただいた。それも中身がいろんな言葉にも感動したんですが、いろんな分野にわたってそれぞれ自分で体験をしているなという部分が見えました。体験の中からはじみ出ている本当に子供たちの純粋な視線、目線といいますか、それで別府全体をよくしたいという思いが本当に伝わってまいりました。心温まる質問、そして思いやりのある質問、さらには貴重な質問ばかりであったと本当に感謝を申し上げます。

私たちも皆さんの別府をよくしたいというこの気持ち、真剣な姿に一生懸命にお答えをしたつもりなんですが、中には計画的に取り組んでいかななくてはならない問題、1番議員にはできないという答えもしました、ごめんなさい。そういうことも含めまして、計画的に進めていく問題とすぐできる問題はしっかりと取り組んでいきたいとこのように考えております。

市役所の力だけではどうしようもない問題もたくさんありましたね。皆さん方が率先して清掃活動にも出ていただいているように、みんなが協力をして、民間の皆さん、市民の皆さんと一緒にまちづくりをしていきたいというふうに考えております。

皆さん方は夏休みも残り少なくなりました。一生懸命に勉強に励んで、また家族や友達と思い出に残る夏休みにしてほしいなという思いでございます。

特に小学校の皆さんは6年生ばかりでしたね。もちろん来年は中学校に上がるわけですから、またたくさんの友達に会えると思います。私は一番の財産は友達だと思っています。だからきょうのこの経験も、この会というので本当にすばらしい友達になれたのではないかなと思いますし、大切なことは家族や友達を愛する心だと思います。

また、中学生の皆さんは1年生、2年生もおられたんですが、ほとんどが高校

受験を控えております。そういう意味ではしっかりとまた勉強していただいて、きょうの経験を大切にしていっていただきたいなど。そして世界に目が向けることができるような人間に成長していただきたいと心から願っております。

今、別府市では「元気な別府」という言葉を私は常に使っております。「元気な別府」これを合言葉にしてまちづくりに取り組んでいるわけです。もちろん皆さんが住んでいるまち、住んでよかったなど、そういうまちづくりをお父さん、お母さん、地域の皆さんと一緒にがんばってください。そして「来てよかった。もう一度訪れたい」とそういうまちにしましょう。自分たちが住んでよかったというまちをつくったら、必ず来た人が「ああ、いいまちですね。明るくて楽しいまちですね。では、もう一度行ってみよう」とそういうまちになるんです。そういう気持ちでそういうまちにしたいと、これからもがんばっていきたいと思っております。

皆さんが成長する6年先あるいは8年先には、別府のまちの土台を私もしっかりと築いていきたいと約束をします。その後は皆さんが市民からも全国の人々からも愛され続ける別府のまちをつくる番となりますから、期待をいたしております。特に6年生は13年後、中学生は10年後、いわゆる公職選挙法10条で市議会議員になれる歳が25歳なんです。13年後、10年後この中からひょっとして別府の市議会議員になるぞと思う人が出てくれるかもわかりませんが、そのときは「あのとき浜田市長に私はこういう質問をしたんですよ。10年たってまだ何もできてない」とそのときの市長に怒ってくださいね。しっかり注文をつけてください。期待をいたしております。

いずれにしても、皆さん方からきょうたくさんの温かいご提言や質問をいただいたことに本当に感動いたしました。一緒に明るい別府のまちをみんなで作っていききたいとこのように考えております。どうぞよろしく願いいたします。

最後になりましたが、第2回のべっぴん子ども市議会の開催に御尽力いただきました、前の方に並んでおりますずっと皆さん方の質問を温かく聞いていただきました「別府市子供会育成会連合会」の皆さん、そして「市PTA連合会」の皆さん、そして保護者の皆さん、ご指導をいただきました先生方、本当にありがとうございました。そして別府市議会の「子供会を支える議員連盟」の皆様方に心か

ら感謝を申し上げまして、お礼にかえたいと思います。本当にありがとうございました。  
(拍手)

市議会事務局主事(遠藤 緑さん) 続きまして、山田俊秀教育長より、本日ががんばっていただきました子ども議員の皆さん方に記念品を贈呈いたします。

代表、朝日中学校3年・宇都宮渚さん。

[教育長より記念品贈呈](拍手)

市議会事務局主事(遠藤 緑さん) ここで子ども議員を代表して、宇都宮渚さんよりお礼の言葉があります。子ども議員並びに執行部の皆さんは全員ご起立願います。

[全員起立]

子ども議員代表(宇都宮 渚さん) きょうは私たちの質問や提言に対して、具体的にそしてわかりやすく答えていただきありがとうございました。きょうの質問や提言は、私たちの強い思いであり願いでもあります。今すぐには叶えられないかもしれませんが、これからも私たちの願いへの実現に向けて市長さん、議員さん、市役所の皆さん、よろしく願います。私たちも未来に向けて住みやすい別府にするために、今しなければならぬことをきょうの議会を参考にして一生懸命がんばります。

この議会に参加できた私たちは、とても貴重な経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

朝日中学校・宇都宮渚

(拍手)

市議会事務局主事(遠藤 緑さん) それでは、みなさん御着席ください。

[全員着席]

市議会事務局主事(遠藤 緑さん) 以上をもちまして閉会式を終了いたします。



別府市議会子ども会を  
支える議員連盟 会長

首藤 正

第2回べっぷ子ども市議会開催に当たりまして、多くの皆様方にご協力をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。

小学校、中学校と別府の子どもたちは、着実に成長しており、頼もしく感じたところがございます。元気な「別府っ子」は、やがてこの町を背負います。

今、私たちは、子どもたちに何を残してあげられるでしょうか。この子どもたちの伸び行く力を育てていくことこそ、私たちの使命であると考えております。

そして、継続は力です。私たちは、一人でも多くの子供たちに子ども市議会に参加していただきたいと思っております。

この子ども市議会を通じ、子どもたちがふるさとに愛着を持ちながら成長してくれることを期待しております。



別府市教育長

山田 俊秀

本年度で2回目を迎えた子ども市議会は、昨年度にも増して素晴らしいものでした。

市内の小・中学生32名の子ども議員による質問や提言は、身近な学校の施設・設備の充実、環境問題、福祉問題、さらには、別府観光の発展等多岐にわたっていました。

日頃の経験や体験をもとにして、自分の考えや思いを堂々と述べる子ども議員の姿に、深い感銘を覚えたのは、私だけではないと思っております。

「住みよい町別府」子ども宣言で、3つのことが宣言されました。別府市に住む子どもたち一人ひとりが、このことを心がけ、実行していくことができれば、今以上に素晴らしい別府になると思っておりますし、きっと実行してくれると期待をしています。

教育委員会も子ども議員の考えが活かされるよう、今後も努力する覚悟です。



別府市子ども会  
育成会連合会 会長

平松 徹夫

「子ども議会をすすめよう」は本年度の（社）全国子ども会連合会の重点目標であります。それに呼応するように「第2回べっぷ子ども市議会」が開催出来ました事に対し子ども会活動に携わる者として心より感謝申し上げます。

小、中学校の代表でもある子ども議員の皆さんの質問や提言は別府市の現状や将来について真剣に考え勉強していることがよく表され深い感動を覚えました。きっと今後の市政運営に活用されることでしょう。

子ども達のためにこのような機会を与えて頂きました浜田博市長をはじめ関係者各位に厚くお礼申し上げます。

子ども議員の皆さんには「住みよい町別府」子ども宣言の内容を友達にも紹介していただき、自分たちの手でできる町作りを実行してください。期待しています。



別府市PTA連合会  
会長

中島 一志

第2回「べっぷ子ども市議会」を昨年に引き続き、市長さん、議長さん、並びに関係者の皆様方のご尽力により開催いただきましたことを心よりお礼申し上げます。

今回は、小学生に中学生も加わり、より幅広い視野で、子供たちの目から見た別府市の諸問題について質問や提言を行い、「子ども宣言」を採択いたしました。

このことは、今現在、子供たちが身につけるべき「社会力」を育む上で、貴重な体験になったと存じます。

今回もわかりやすく答弁をいただきました、浜田市長はじめ執行部の皆様方に感謝申し上げますとともに、この子ども市議会を通じて得られましたことが、日ごろの子供たちの児童会や生徒会活動に活かされますことをご祈念し、また期待をいたしまして私のあいさつといたします。

# 「住みよい町別府」

## 子ども宣言

私たちはこの市議会を機会に、自分たちの住んでいる別府について考えてみました。未来に生きる子供たちが住みやすい別府をつくり、豊かな自然と別府独自の湯けむりを誇りとし、市民全ての方が笑顔でいられるように、ここに次のことを約束し、実行していくことを誓います。

1. 豊かな自然を守るために、資源を大切にし、別府を美しい町にします。
2. 学校の友達、地域の方と楽しく過ごすために、人を思いやり、協力してものごとを行います。
3. 別府を明るい町にするために、人と人とのコミュニケーションを大切にしていきます。

以上宣言いたします。

平成 16 年 8 月 19 日

べっぷ子ども市議会